

目 次

I 法人の部

- 1, 全体総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
 - 評議員会・理事会・監事監査の状況・・・・・・・・・・3
- 2, 人財育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- 3, リスク管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
- 4, 総務・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- 5, 広報・企画・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
- 6, 実習生の受け入れ・・・・・・・・・・・・・・・・16

II 事業の部

- 1-① 障害者支援施設向陽園(施設入所支援)・・・・・・・・18
 - ② 障害者支援施設向陽園(生活介護)・・・・・・・・21
 - ③ 障害者支援施設向陽園(生活介護)・・・・・・・・23
- 2, 向陽園ショートステイサービス・・・・・・・・26
- 3, グループホーム支援センター向陽園・・・・・・・・28
- 4-① デイサポートたんぽぽ工房・・・・・・・・30
 - ② 障害者芸術推進センター・・・・・・・・33
- 5, デイサポートさくら・・・・・・・・36
- 6, エコファームもとさわ(就労継続支援A型事業)・・・・・・・・38
- 7, 向陽園地域生活支援センター・・・・・・・・40
- 8, ホームヘルプステーション心音・・・・・・・・42
- 9, グループホーム支援センター心音・・・・・・・・44
- 10, 向陽園児童デイサービスふるふる・・・・・・・・47
- 11, デイサポート月のひかり・・・・・・・・49
- 12, 児童デイサービス月のひかり・・・・・・・・51
- 13, ショートステイサービス月のひかり・・・・・・・・53
- 14, 向陽園北部支援センター・・・・・・・・55
- 15, デイサポートにじいろ・・・・・・・・57
- 16, グループホーム支援センターみらい・・・・・・・・59
- 17, あすなろショートステイサービス・・・・・・・・61
- 18, デイサポート天花・・・・・・・・63
- 19, グループホーム支援センター天花・・・・・・・・65
- 20, ぶどうの木ショートステイサービス・・・・・・・・67
- 21, 地域生活支援センター天花・・・・・・・・69
- 22, 多機能型事業所なかやま虹の丘・・・・・・・・71

《 I - 1 法人の部 全体総括 》

はじめに

国の制度面では平成30年4月に実施される障害福祉サービスの報酬改定への対応が中心となった。日本知的障害者福祉協会をはじめ障害各団体が連携して取り組みを行った結果、廃止が確実視された食事提供加算が継続となり0.47%のプラス改定となった。提示されている理念や方向性は「共生社会」の実現にあり、当法人の方向性と一致していると考えられる。保育、介護とともに障害分野においても人材不足は深刻さを増している。多様なツールを通して対応していきたい。

社会福祉法人改革への対応については、評議員会等、組織的には整備できた。今後、監査法人の導入や地域貢献活動が一層求められる状況にあり制度の動向を注視したい。

山形市においても障害者の差別解消条例が施行となり、県と市で障害者の差別の解消に関わる条例は全国で初めてであり、徐々にではあるが障がいのある人たちへの理解が広がっている。今年度も法人経営の目標として、東南村山福祉圏域において継続して障がいのある利用者の地域生活を支える基盤づくりに努めた。山形市片谷地にグループホーム「いちごはうす」、中山町に「雨宿館」の開設に向けて取り組んだ。また、天童市において地域活動支援センターの受託契約を結んだ。精神障がいのある利用者への支援となるが地域の社会資源としての役割を果たしていきたい。2つのグループホームの開設によりグループホーム生活者は100名を超え、向陽園開設時入所された利用者はすべて地域に移行したことになり、一定の成果をえることができた。

8月には、継続して東北福祉大学のチームが地域生活者への移行調査を行なった。それによると利用者の満足度、継続希望は極めて高い。利用者の地域での生活で住民との自然の交流がみられるが、今後一層地域との交流を図っていきたい。県からの委託事業である「障害者芸術推進センター」の活動は継続できた。人材の養成については、派遣研修はじめ多くの取り組みを行ったが、3月に実施している実践研究発表において意欲的な取り組みが多く、今後も継続していきたい。

法人の課題として、事業活動の収支差額が少ない状況にあり、将来を支える財政基盤の整備には至っていない。現場の努力によって収支の改善は見られたが、更なる工夫が求められている。現場の人員不足に対しても様々な工夫をしながら対応している状況にあり、法人スタッフも240名を超え、各エリア、事業所の繋がりを強化し、法人の取り組みを県内外に向けて発信したい。

《次年度への課題》

- ・ソーシャルワークの実践
- ・財務体質の強化
- ・働きやすい職場づくり

評議員会開催状況

社会福祉法が改正され、新たな定款、規程等による法人運営初年度となった。評議員会は、議決機関として、位置づけられ、29年度は、3回開催した。

《臨時評議員会》

1、日時 平成29年4月12日(水)午後6時30分から午後7時00分

2、場所 ホテルイーストワン

3、定数 評議員8名(現員 8名・監事 2名)

出席評議員 8

出席監事 2名

4、説明のために出席した職員 6名

5、議題

議第1号 社会福祉法人愛泉会評議員等の報酬及び旅費規程の設定について

報告事項

その他

《定時評議員会》

1、日時 平成29年6月22日(木)午後6時00分から午後8時30分

2、場所 山形市総合福祉センター会議室

3、定数 評議員8名(現員 8

・監事 2名)

出席評議員 7

欠席評議員 1名

出席監事 2名

4、説明のために出席した職員 7名

5、議題

報告事項 平成28年度社会福祉法人愛泉会事業報告及び事業報告の附属明細書の報告について

議第1号 平成28年度社会福祉法人愛泉会貸借対照表、収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)、貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書、及び財産目録の承認について

議第2号 社会福祉法人愛泉会理事、監事の選任について

報告事項

その他

《臨時評議員会》

1、日時 平成30年3月16日(金)午後6時30分から午後7時30分

2、場所 山形市総合福祉センター会議室

3、定数 評議員8名(現員 8

・監事 2名)

出席評議員 6名

欠席評議員 2

出席監事 2名

4、説明のために出席した職員 6名

5、議題

議第1号 社会福祉法人愛泉会定款の一部変更について

報告事項

その他

理事会開催状況

《通常理事会》

- 1、日時 平成29年6月9日(火)午後1時30分から午後4時30分
- 2、場所 向陽園会議室
- 3、定数 理事 7名(現員 7名・監事 2名)
出席理事 7名
出席監事 1名
欠席監事 1名
- 4、説明のために出席した職員 5

5、議題

議第1号 平成28年度社会福祉法人愛泉会事業報告及び事業報告の附属明細書の承認について

議第2号 平成28年度社会福祉法人愛泉会貸借対照表、収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)、貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書及び財産目録の認定について

議第3号 平成29年度社会福祉法人愛泉会第1次補正収支予算の承認について

議第4号 ショートステイサービス月のひかり運営規程の一部を改正する規程の制定について

議第5号 山形市片谷地でのグループホームの開設について

議第6号 中山町でのグループホーム開設について

議第7号 社会福祉法人愛泉会理事、監事選任候補者の選任について

議第8号 平成29年度定時評議員会の招集について

議第9号 障害者支援施設向陽園食事サービス提供業務委託業者との契約について

報告事項

その他

《臨時理事会》

- 1、日時 平成29年6月22日(木)午後7時30分から午後8時00分
- 2、場所 山形市総合福祉センター会議室
- 3、定数 理事 7名(現員 7
・監事 2名)
出席理事 7
出席監事 2名
- 4、説明のために出席した職員 4

5、議 題

議第1号 社会福祉法人愛泉会理事長の選任について

報告事項

その他

《臨時理事会》

1、日時 平成29年7月18日(火)午後6時00分から午後6時30分

2、場所 山形キャッスルホテル

3、定数 理事 7名(現員 7

・監事 2名)

出席理事 5

欠席理事 2名

出席監事 1名

欠席監事 1名

4、説明のために出席した職員 3

5、議 題

議第1号 (仮称)グループホーム片谷地の事業用賃貸借契約の締結について

報告事項

その他

《臨時理事会》

1、日時 平成29年9月21日(木)午後1時30分から午後4時30分

2、場所 山形市総合福祉センター会議室

3、定数 理事 7名(現員 7名・監事 2名)

出席理事 5

欠席理事 2

出席監事 2名

4、説明のために出席した職員 4

5、議 題

議第1号 社会福祉法人愛泉会経理規程の一部を改正する規程の制定について

議第2号 (仮称)グループホーム雨宿館の事業用賃貸借契約の締結について

議第3号 施設設備整備積立定期預金の取崩について

議第4号 社会福祉法人愛泉会第2次補正収支予算の承認について

議第5号 社会福祉法人愛泉会嘱託職員等に関する就業規則の一部を改正する規則の制定について

議第6号 社会福祉法人愛泉会正規職員転換制度規程の設定について

議第7号 事業所長等の選任について報告事項

その他

《臨時理事会》

1、日時 平成29年11月14日(水)午後13時30分から午後4時00分

2、場所 山形市本沢コミュニティセンター会議室

3、定数 理事 7名(現員 7

・監事 2名)

出席理事 6名

欠席理事 1名

出席監事 2名

4、説明のために出席した職員 5名

5、議題

議第1号 社会福祉法人愛泉会定款施行細則の一部を改正する細則の制定について

議第2号 社会福祉法人愛泉会正規職員転換制度規程の一部を改正する規程の制定について

議第3号 平成29年度社会福祉法人愛泉会第3次補正収支予算の承認について

報告事項 平成29年度社会福祉法人愛泉会理事長職務執行状況報告

その他

《臨時理事会》

1、日時 平成30年1月30日(月)午後1時30分から午後3時00分

2、場所 山形市総合福祉センター会議室

3、定数 理事 7名(現員 7

・監事 2名)

出席理事 7

出席監事 2名

4、説明のために出席した職員 4

5、議題

議第1号 平成30年度社会福祉法人愛泉会事業方針について

議第2号 地域活動支援センター天花の経営について

議第3号 ショートステイサービス心音の経営について

議第4号 平成29年度第4次補正収支予算の承認について

議第5号 グループホーム支援センターなかやま運営規程の設定について

議第6号 社会福祉法人愛泉会定款の一部を改正する定款の制定について

議第7号 平成29年度 社会福祉法人愛泉会臨時評議員会の招集について

議第8号 グループホーム支援センター心音運営規程の一部を改正する規程の制定について

議第9号 ショートステイサービス心音運営規程の設定について

報告事項

その他

《臨時理事会》

1、日時 平成30年2月20日(火)午後1時30分から午後4時00分

2、場所 向陽園会議室

3、定数 理事 7名(現員 7

・監事 2名)

出席理事 6

欠席理事 1名

出席監事 2名

4、説明のために出席した職員 5

5、議題

議第1号 社会福祉法人愛泉会定款施行細則の一部を改正する細則の制定について

議第2号 社会福祉法人愛泉会公印規程の一部を改正する規程の制定について

議第3号 社会福祉法人愛泉会文書管理規程の一部を改正する規程の制定について

議第4号 社会福祉法人愛泉会経理規程の一部を改正する規程の制定について

議第5号 社会福祉法人愛泉会経理規程細則の一部を改正する細則の制定について

議第6号 社会福祉法人愛泉会資金運用規程の一部を改正する規程の制定について

議第7号 地域活動支援センター天花運営規程の設定について

議第8号 事業所長等の選任について

報告事項

その他

《通常理事会》

1、日時 平成30年3月23日(金)午後1時30分から午後3時00分

2、場所 山形市総合福祉センター会議室

3、定数 理事 7名(現員 7

・監事 2名)

出席理事 6

欠席理事 1名

出席監事 2名

4、説明のために出席した職員 5

5、議題

議第1号 多機能型就労支援事業所エコファームもとさわ就労継続支援B型事業所の廃止について

議第2号 多機能型就労支援事業所エコファームもとさわ運営規程の一部を改正する規程の制定について

議第3号 社会福祉法人愛泉会定款施行細則の一部を改正する細則の制定について

議第4号 社会福祉法人愛泉会嘱託職員等に関する就業規則の一部を改正する規則の制定について

議第5号 社会福祉法人愛泉会平成29年度第5次補正収支予算の承認について

議第6号 事業所長等の選任について

議第7号 社会福祉法人愛泉会平成30年度事業計画の承認について

議第8号 社会福祉法人愛泉会平成30年度当初予算の承認について

議第9号 障害者支援施設向陽園食事サービス提供業務委託契約の締結について

議第10号 公用車自動車任意保険契約の締結について

議第11号 平成30年度計上借入限度額等の設定について

報告事項 平成29年度社会福祉法人愛泉会理事長職務執行状況報告

平成28年度事業報告及び決算監査

日時:平成29年5月24日(水曜日)・25日(木曜日)

場所:法人本部、向陽園会議室

監査内容:

- ①平成28年度 事業報告について
- ②平成28年度社会福祉法人愛泉会収支決算について

その他

①正規職員転換試験

平成30年 2月20日 井上理事長・森谷理事・吉田理事・庄司理事・加利屋理事・村上理事

・平成30年4月から5名の職員が正規職員に転換となった。

《 I - 2 人財育成 》

八柳 律子

1, 当初目標

- ①障がい分野での人材不足、職員採用難が顕著になってきた。特に広報活動、採用後の育成研修のための人財育成プログラムを作成し、長期就業出来る法人システムを構築する。
- ②法人の理念・基本方針の徹底を図る。特に権利擁護、意思決定支援について全職員への徹底を図る。
- ③利用者支援の質を担保するため、サービスの質の向上と職員一人ひとりの向上を目指す。
- ④法人内各種ごとの役割を明確にし、実行性のある研修体系を築く。
- ⑤一人ひとりの研修目標を明示し、年間を通して学べる機会を提供し事業所内でお互いに支え合える関係性の構築を図る。

2, 実施状況

①法人研修

- ・法人研修—新採職員研修会 4/3～5 法人理念、地域支援、権利擁護等座学
5/9 安全運転・リスクマネジメント研修、懇親会
8/30 事業所見学、グループワーク
- ・意思決定支援研修会 5/25 福島県知的障害者福祉協会長 古川敬氏
- ・救急蘇生法研修 12/4～15(5回)
- ・法人視察研修会 1グループ カナンの園、栗原秀峰会 1泊研修 8名
2グループ つどいの家、矢本愛育園 1泊研修 11名
- ・管理者・リーダーカウンセリング研修 12/12、1/30、2/20、3/27 4回
- ・実践研究発表会 3/24
デイサポートたんぽぽ工房「『はたらく』『こせい』『つながり』」
デイサポートにじいろ「地域交流に向けた取り組み」
北部支援センター「『食』の充実を目指して」
デイサポート天花「『お仕事したい！』の声を受けて」
デイサポートさくら「働く・遊ぶ・挑戦する」
なかやま虹の丘「自主製品の取り組みについて・祭花」
グループホーム支援センター天花「不応行動の捉え方と関わり～心情理解とは～」
グループホーム支援センター向陽園「Kさんについて」
グループホーム支援センター心音「地域で暮らすということ」
グループホーム支援センターみらい「GH利用者の地域生活を考える～はなだて・すまいるの現状と課題」
向陽園Aチーム「環境部門の取り組み～CHANGING THE CONSCIOUSNESS～意識を変える！！」
向陽園Bチーム「今日の休みはなにしようかな？余暇支援の場面に見る意思表出支援と意思決定支援」
児童デイサービス月のひかり「平成29年度卒業を迎えるYさんへの支援」
児童デイサービスふるふる「Mさんの支援から見えてきたこと」

相談支援センター心音「自立支援協議会の活性化」

ホームヘルプステーション心音「精神障がい者支援の関わりと課題」

②派遣研修

- ・山形県知的障害者福祉協会総会・施設長等研修会（山形市 4/27,28）12名
- ・東北地区知的障害者福祉協会総会・施設長連絡会（秋田市 6/8,9）4名
- ・全国知的障害関係施設長等会議（東京都 7/4,5）3名
- ・東北地区知的障害者福祉協会 専門研修会（郡山市 9/14,15）6名
- ・東北フォーラム2017inいわて（盛岡市 11/30,12/1）8名
- ・全国生産活動就労支援部会職員研修会（兵庫県尼崎市 11/9,10）2名
- ・障がい児・者施設職員研修2（山形県社会福祉研修センター）6名
- ・障がい児・者施設職員研修1（ ）2名
- ・社会福祉専門研修2（口腔ケア）（ ）1名
- ・社会福祉専門研修3（メンタルケア）（ ）1名
- ・社会福祉専門研修4（心の病の理解）（山形県社会福祉研修センター）1名
- ・中堅職員キャリアアップ研修2期（ ）2名
- ・チームリーダーキャリアアップ研修2期（ ）3名
- ・スーパービジョン研修（ ）2名
- ・全日本自閉症支援者協会北海道・東北ブロック研修会（盛岡市1/29）3名
- ・こうさいセミナー（神奈川県 2/2）1名

③取得研修

- ・山形県障がい者相談支援従事者特別研修（8/17,18）10名
- ・山形県サービス管理責任者研修（介護）（1/18,19）9名
- ・山形県サービス管理責任者取得研修（地域生活）（1/18,19）1名
- ・山形県相談支援従事者現任研修（9/22,23）3名

④採用のため取り組み

- ・7月12日、仙台市内大学、専門学校を訪問
- ・7月29日、東北芸術工科大学 オープンキャンパスへの参加
- ・10月9日、ハローワーク主催合同面接会への参加

⑤その他

- ・山形県知的障害者福祉協会高齢障がい者に関する研修会での事例発表（2/6）
- ・東北福祉大学学生と共同で、サービス利用者地域移行実態調査を実施した。（8/18、20）

3, 評価及び課題

・今年度の実践研究発表会は、1日で全ての発表を実施するため、2会場での同時開催を試みた。コンパクトで良い、選んで聞けるので良い、せっかく頑張って準備したのだから全部聞きたかった等、様々な意見が寄せられた。昨年度より計画的に取り組んでいただいた事業所も増え、充実した内容になっている。いただいたご意見を参考に更に充実した会にしていきたい。

- 東北福祉大学との地域移行実態調査は、大変有意義なものとなったが、逆に愛泉会のこれまでの様々な地域支援の実績が、データとして蓄積されていないことがわかった。職員の頑張りを記録として残し、更に積み上げていけるような研修体系が課題となろう。またよい調査であるため、継続していきたい。
- 山形県社会福祉研修センターの研修もこれまでより多くの受講をする事ができた。情報を提供し、事業所ごと参加したい研修に参加出来た。更に事業所に負担なく申し込めるように工夫していきたい。
- 採用難は更に続くと思われるが、30年度からリクナビへの登録も開始するため有効に、効果のあるように活用していきたい。今年度の新採職員研修は振り返りをしながら、半期は開催出来たが、後期は実施出来なかった。愛泉会に入職した職員が、中途採用者であっても受けられるような、年間スケジュールを作成時、確実な実施が課題である。

《 I - 3 リスク管理 》

庄司 泰夫

1, 当初目標

- ① サービス提供時の事故の発生を未然に防止するとともに、万一事故等が発生してしまった場合には、適切に対応し、損害や事態を最小限にとどめられるよう、リスクマネジメント体制を確立する。
- ② より質の高いサービスを提供するため、事業所内外のリスクを的確に発見・把握し、適切な対応が行える職員を育成するとともに、そうした組織風土を醸成する。

2, 実施内容

① リスクマネジメントの取り組みについて

- ・毎月15日を「安全確認・点検の日」とし、年間を通して安全運転の啓発を行なうとともに、日々上げられてくる事故報告やヒヤリハット報告の内容等を見ながら、再発防止に向けて、設備や施設の点検、支援マニュアルの再確認、支援ルーティーンの振り返り等の呼びかけを行なってきた。
- ・各事業所で発生した事故・苦情等については、経営会議の場で所長等から報告してもらい、改善策等の検討を行った。
- ・薬に関連する事故、感染症予防のため、看護職員会議を開催し、改善策、対応策を話し合った。

② 事故等の状況について

- ・車輻事故…ホームヘルプ事業所、日中事業所を中心に車輻事故が見られた。利用者が乗り降りしやすいように、配慮し、歩道等に車を寄せすぎたために、路肩等に車を擦った事故がほとんどであった。また、冬期間、大雪のため、車幅が狭くなり、対向車を避けようとして、路肩等に擦ってしまう事故も数件見られた。
- ・服薬ミス…グループホーム、入所支援等の居住系事業所を中心に服薬に関する事故がみられた。看護職員会議を開催し、改善策、対応策の検討を行い、対応した。
- ・器物破損等の事故が28年度から比べ減少した。各事業所での取り組みの成果の表れと思う。
(詳細については、各事業所事業報告参照)

3, 評価及び課題

- ・薬関連の事故が多くみられた。特に、グループホームについては、様々な職員が関わり支援を行なっていることもあり、薬の飲ませ忘れが多くみられた。年度後半から急遽看護職員会議を開催し、対応策の検討を行った。次年度は、看護職員会議を定期的で開催しながら、薬関連の事故をなくすための対応策を検討していきたい。
- ・施設入所者の地域移行が進む中、向陽園を利用する多くの利用者が支援の難しい方々となり、ここ数年、トラブルによる怪我、器物破損が多くみられていたが、29年度は、事故数も大きく減少した。事例検討を繰り返し、チームとして支援したことが数値として表れていきているように思われる。

《 I - 4 総務 》

高山 能之

1, 当初目標

- ①法人、各事業所の安定した経営、運営のための予算管理・執行、労務管理等の調整を行う。
- ②安定した法人経営のため、各事業所の収支状況を把握し、分析を行う。
- ③関係法令等を遵守した事業運営がなされるよう、各事業所の調整を行う。
- ④評議員会、理事会の適時適切な開催を行う。

2, 実施状況

- ・社会福祉法が改正され、新たな定款、規定等による法人運営初年度となった。新しい法人組織として評議員会を3回、理事会は8回開催した。
- ・平成28年度の課題として、規定に沿った事務手続き及び正確な財務会計が挙げられたことを受け、向陽園・南部エリアと北部天童エリアの2つのエリア分けを行い、それぞれ1名ずつ総務課職員が拠点事務員へ巡回指導を行うこととした。財務会計に関して一定の精度向上は見られたが、契約関係や労務関係の事務処理について、実態と事務員との情報共有が不十分な部分が見られている。また各事業所における収支状況の把握と分析については、平成29年度より月次報告の精度向上に向けて、法人本部において全サービス区分の月次報告の確認と必要な修正の依頼を行っている。報告についても規定に従って適切に提出がなされるようになった。
- ・予算原案の編成や執行の管理、職員の新規採用時の提出書類、特別休暇の承認、寄付金品の受入れ等の事務については、拠点事務員の指導と併せて事業所長等管理職の理解度の向上も必要であり、今後の大きな課題と思われる。
- ・平成29年度は、補正収支予算編成は、5回実施している。近年について、サービス区分及び拠点区分の数が増えており、法人全体としてまとめて計算した場合の予算と決算の誤差が大きくなってきており、収入・支出両面において現場との情報共有の重要性が増している。適切な財務状況の把握に努め、今後の経営判断の際の適切なデータ情報となるよう、予算編成の精度向上を図っていきたい。

3 評価及び課題

- ・各事業所が一つの事業所として運営されるよう、事業所としてのスキルアップが必要と思われる。事業収入及び支出の把握、所轄庁への許認可の申請や100万円を超える契約、業務請負受託契約、不動産の借入れ契約等の契約事務、職員の入退職時や特別休暇等の取り扱い、勤怠の確定等、事業所を経営していくという事についての学びについて管理職を中心に行う必要があると思われる。
- ・財務体質の改善および強化に向けて、各事業所の収支と法人全体の収支の関連性についての分析と全事業所間での情報共有が必要と思われるため、各事業所及び法人全体における財務状況の方法発信を4半期毎等定期的に行い、情報発信と併せて説明を行う事で各事業所の理解を得られるような取り組みを行っていきたい。

《 I - 5 広報・企画 》

庄司 泰夫

1, 当初目標

- ①障がい者アートの普及、拡大を目指す。
- ②愛泉会の情報伝達と利用者の笑顔を伝える幅広い広報活動を展開する。

2, 実施内容

①広報関係

- ・愛泉会パンフレット、簡易リーフレットの一部を見直し、作成した。
- ・社会福祉法改正により、透明性の高い法人経営が求められるため、ホームページ等を改修し、定款、役員報酬規程、計算書類等を公表した。・機関紙ひまわり第86, 87号を発行した。
- ・年賀状作成した。

3, 評価および課題

・事務局内に広報企画課を置き、機関誌、パンフレットの発行等の広報活動を行なってきたが、あり方、内容等を見直しが必要とのことから、会議を開催し、見直しに向け検討を行った。機関誌については、行事等は、各事業所で発行する「事業所だより」等で伝えることとし、機関誌では、法人の理念や基本方針、取り組みなどを中心に取り上げ、掲載していくこととした。

《 I - 6 実習生受け入れ 》

竹田 雅彦

1, 当初目標

- ①利用者の方々と共に生活していく中で、障がい児・者への理解を深めてもらうと同時に、障がい児・者福祉の理解者として、地域社会における福祉理解の核となるよう、育成に努める。
- ②職員の業務体験を通じて支援の方法、関係機関との連携等を理解してもらいながら、職員も実習指導を通じて、利用者支援の点検及び自らの福祉観、指導観を確認する。
- ③実習を通し、一般に抱く施設のイメージと実際の施設とを比較しながら、施設の持つ機能を理解させる。
- ④実習生の多様な視点や意見を利用者支援や事業所運営にいかしていく。

2, 実施内容

(社会福祉援助技術実習、相談援助実習)

8月21日～ 9月22日	宮城学院女子大学	1名
8月28日～ 9月29日	東北福祉大学 通信教育部	1名
9月25日～10月27日	(財)日本総合研究所	1名
9月 4日～ 9月 7日 9月11日～ 9月12日 10月10日～10月17日 11月 6日～11月13日 12月 4日～12月11日	日本こども福祉専門学校	1名

合 計	4名
-----	----

- ・29年度は計4名であり、実習生の都合もあり年間を通しての受け入れとなったが、受け入れ先の法人内の各事業所の協力もあり、滞りなく終了できた。
- ・今年度は、新たに宮城学院女子大学と日本こども福祉専門学校からの実習生を受け入れた。
- ・社会福祉援助技術実習(相談援助実習)は社会福祉士国家資格取得を目指す実習生達であり、他福祉関連施設等で仕事をしながらの実習生も多く、実習中の視点や気付き、問題意識は総じて高く、評価できるものであった。
- ・過年度にはなるが、元実習生が法人への就職につなげることができた。

(介護等体験、保育実習等)

5月17日～ 5月19日	山形市立第九中学校	2名
5月31日～ 6月13日	山形大学附属特別支援学校 産業現場等における実習	1名
5月23日～6月16日	(医)横山厚生会 山形厚生看護学校 一日2日間ずつ 在宅看護論実習 I	12名
6月19日～ 6月30日	東北文教大学短期大学部 (保育実習 I)	3名
7月25日～ 7月27日	山形県立東高等学校	1名

	高等学校中堅教諭等資質 向上研修	
7月31日～8月11日	羽陽学園短期大学(保育 実習Ⅰ)	3名
8月21日～9月2日	東北文教大学短期大学部 (保育実習Ⅰ)	4名
9月7日～9月21日	東北文教大学短期大学部 (保育実習Ⅰ)	4名
2月12日～2月23日	羽陽学園短期大学(保育 実習Ⅰ)	3名
2月14日～2月25日	東北文教大学短期大学部 (保育実習Ⅰ)	2名
合 計		35名

- ・法人内の各事業所の受け入れの協力もあり、今年度も1年を通し滞りなく、実習を受け入れることができた。
- ・個別的な支援が必要な利用者が増えて来ていることで、実習生が怪我をしないように配慮しながらの受け入れであった。
- ・実習生には個別支援計画を作成して、利用者さんのニーズに合わせ支援を提供する基本的な部分と個別支援計画の流れが理解できるように取り組んだ。
- ・実習生反省会の時間を設け、実習の振り返りと疑問点、また、当施設の改善点について話を聞くように努めた。
- ・実習生担当職員を多くの職員より行なってもらい、実習生に教えることにより職員自身の学び、成長につながるよう取り組んだ。

3, 評価および課題

- ・実習期間内に知識や技術の根幹である価値・倫理を、ある程度きちんと、どう伝えていけるかが継続的な課題である。
- ・法人内での実習を通して就職に繋がるようにしていきたいと考えているが、介護職を希望されている学生が年々減ってきている状況とのことであり、学校との連携を取りながら就職の選択肢の一つになるよう取り組んでいく必要がある。

《Ⅱ-1-① 障害者支援施設向陽園(施設入所支援)》

園長 加利屋裕子

1, 当初目標

- ①利用者が安心できる居住環境をつくるために課題の整理を行う。また、日々の支援を通してスタッフの情報の共有手段と利用者との信頼関係をつくっていく。
- ②利用者の「喜怒哀楽」「しぐさ」「表情」などを観察し、コミュニケーション手段を考え、スタッフ間で情報の共有を実施する。
- ③アセスメント技術の向上と日々の支援の振りかえりの機会をつくる。
- ④日々の支援で行動規範を徹底し、振り返りを大切にしながら利用者の権利擁護を推進する。

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
利用者定員	40名	40名
年間利用者延べ人数	14, 257	14, 763
年間稼働日数	365日	365日
平均利用者数	39. 1名／日	40. 4名／日
平均稼働率	97. 8%	100. 8%
平均障がい支援区分	5. 1	5. 1

②運営状況

i, 体験・経験を増やすための活動について(イベント・外出等)

ア, 外出支援

利用者の要望を汲み取りながら、個別外出、日帰り旅行、一泊旅行を行なった。個別外出では、ご本人が「行きたい場所

、「したいこと」を大切に、カラオケや買い物、外食などを行なった。好みの洋服を選んだり、大好きな歌を歌ったり、楽しむことができたと思われる。

日帰り旅行として、「JR旅のプレゼント

に参加し、新幹線に乗り福島までの旅を楽しんだ。また、庄内方面、仙台方面への日帰りでの旅行を企画し、実施した。向陽園に入所してから、初めて参加する利用者もいたが、大きなトラブルもなく、皆で楽しみながら様々な体験を味わうことができた。普段の関わりや支援の成果が発揮されたのではないかと感じた

一泊旅行としては、12月に東京方面への旅行を実施した。少人数の実施ではあったが、参加された方にとっては、今後の社会生活に繋がる大きな経験ができたのではないかとと思われる。

イ, 余暇支援

・今年度も、休日の余暇支援として、「クナイペ」さんからご協力をいただき、月1回「にちようかふえ」を行なった。自分で好きなものを選び、カフェの雰囲気の中で楽しいひと時を過ごすことができたと思われる。「クナイペ」さんの閉店に伴い、11月からは、自治会で利用者の希望をとり、カレーや餃子作り、年越しそばやバレンタインデ이의チョコレート作りなど、季節に合わせた活動を行った。

・サークル活動として、講師の方に来ていただき、月1回、書道サークル、音楽ワーク、ドッグセラピーを行なった。ドッグセラピーは講師の方の都合により、11月で終了した。

ii, 利用者主体の生活づくり(生活環境・生活様式・生活リズム)

・居室作りでは、前年度からの取り組みを継続し、利用者の好みや好きなものを取り入れながら、その方ならではの居室作りを行なった。目標に沿った取り組みができたのではないかと感じる。

・デイルームや廊下は季節の装飾により季節感を楽しんでいただける空間となるよう取り組んだ。利用者と一緒に作りながら、写真や掲示物の飾り付けを行い、楽しく明るいスペース作ることができた。

・トイレ、浴室、洗面所などの共有スペースの一部は、老朽化がみられているが、安心して利用していただけるよう、環境部門で取り組みを行った。

iii, 意思決定支援のための取り組みについて

・利用者の想いを「わたしの気持ち」としてアセスメントし、利用者の想いや気持ちを汲みとり、理解するように取り組みを行った。担当職員が作成したアセスメントを生活担当をする職員皆で確認し、担当職員が気づかない部分を補いながら、多角的な視点でアセスメントができるように取り組んだ。

・ケア会議を行い、これまでの歩みや情報を皆で再確認しながら、ご本人が今置かれている状況や気持ちを洞察するように努め、ご本人に寄り添った支援ができるように努めてきた。

・意思決定支援として、自治会活動を足掛かりとし、利用者の希望や想いが実現されるように取り組みを行ってきた。また、自治会活動の反省から、自分の意思を発信することが難しい方々への取り組みにも挑戦した。今後も継続したい。

iv, 地域貢献・交流活動

地域との交流の機会をつくることがなかなかできなかった。

v, 食事サービス

昨年度に続き食事サービスの委託業者が年度途中で変更になったが、大きなトラブルも無く引き継ぎを行なうことができた。メニュー内容に満足度は下がっているが(冷凍野菜の使用・ボリュームなど)、施設独自の取り組みで余暇のおやつを提供や次年度は、施設の管理栄養士が献立・食材発注を行うお楽しみメニューを月1回実施することとし満足度を上げていきたい。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	2	5
利用者間のトラブルによる怪我	1	16
転倒等による怪我	4	2
車の事故、破損	0	0
誤投薬・未投薬	1	7
施設・事業所からの離脱	0	2
その他	1	3

3, 評価及び課題

・利用者の想いに寄り添いながら、利用者を中心に据えて支援を展開する取り組みを進めることができた。今後も支援力を上げるとともに、皆で情報を共有しながら、多職種連携によるチームで、利用者中心の支援を推進していきたい。

・前期より引き続き、後期でも環境部門、余暇部門での取り組み・支援を展開することができた。園内の環境整備の促進、利用者の方の衣類や居室環境の整備、余暇支援においてチームでの取り組みを実践できた。環境部門での取り組みでは、利用者の方の居住環境(浴室やトイレなど)の改善も図られている。利用者の方の居室作りでは、前期の取り組みを発展させ、ご本人らしさあふれる居室作りを行なうことができるようになってきている。

余暇部門では、自治会活動から出発し、利用者中心の余暇活動の実現につなげることができた。意思や気持ちを伝えることが難しい利用者の方にも発信してもらいたいとの願いから、どうしたら意思表示できるのか創意工夫により意思決定支援の一步を踏み出すことができた。

環境部門、余暇部門の取り組みでは、活動・生活面での利用者支援の先にその活動の真意があることの発見が大きな成果であったのではないかとと思われる。

「支援」「環境」「余暇」が連動し、利用者を中心として活動を展開することにより、利用者の方の豊かな暮らしにつながっていくものと思われる。

・利用者の方は地域のなかに暮らしており、これまでの取り組みの成果を地域参加、地域交流を推進しながら発展させていくことが求められると思われる。

《Ⅱ-1-② 障害者支援施設向陽園(生活介護)》

園長 加利屋裕子

1, 当初目標

- ① 多種多様なプログラムを準備し、分かりやすい情報の提供をすることでご自身で選択できることを目指す。
- ② 様々な障がい(重度心身障がい、精神障がい、行動障がい、自閉症)を持つ方が所属しているので、専門的支援・介護を学ぶ機会を設け、現場実践に繋げる。
- ③ 障がい特性と個々のニーズに合わせグループごとの活動を提供するが、日々の職員間の連携を大切にしてい

2, 実施状況

① 利用実績

平成29年度	
平成28年度	
定員	40名
	40名
利用者延べ人数	6,880
	6,849
営業日数	272日
	270日
1日平均利用者数	25.3名/日
	25.4名/日
定員稼働率	63.3%
	63.4%
平均障がい支援区分	5.3
	5.5

- ・ちゅうりっぷ班において、新規利用者1名の受け入れを行った。職員配置、現在の利用されている利用者への支援、個別支援の実施等の状況等の面から見てもその他の受け入れは難しい状況であった。
- ・今後に向けた課題として、活動の充実、職員間での情報の共有と課題に対する共通認識が求められる。

②運営状況

- ・体育活動班は、リサイクル活動(ペットボトルのラベルはがし)、園芸活動、バスドライブ、創作活動、セルフクッキング、自閉症の方の個別活動を中心に活動を行った。日々の活動の他、合同による花見、バーベキュー、感謝祭などの季節の行事も実施している。
- ・ひだまり班は、活動プログラムに沿っての活動提供であるが、日記作り、足湯、音楽活動、調理活動、リハビリ、乗馬活動等、利用者の体調に合わせて支援を行った。利用者の個別支援計画に合わせ、外出や午後の入浴を実施している。
- ・リハビリ活動は、毎月第二、第四金曜日と各週の水曜日に実施。理学療法士より、日常動作で行うリハビリを担当スタッフと一緒にやっている。
- ・バーベキュー、調理活動、温泉外出の3つの中から、写真で提示し行きたい場所を選択していただき外出および外食を行った。
- ・行動規範については、生活介護事業所用の行動規範自己チェックを用いて行ったが、自己チェック後、会議等で振り返りを行うことができなかった。
- ・年間計画の中の研修および地域貢献活動を実施することができなかった。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	2	1
利用者間のトラブルによる怪我	0	0
転倒等による怪我	2	1
車の事故、破損	1	1
誤投薬・未投薬	0	1
施設・事業所からの離脱	0	0
その他	1	1

3, 評価及び課題

・利用者を中心に活動に取り組んでいる。午前中は作業・活動を中心に行い、午後は入浴・個別ドライブを実施している。利用者が外に出る機会が少なく、個別活動の利用者に職員が多く配置されているため、1人ひとりに合わせた活動提供が十分にできていない状況である。

向陽園の生活介護事業所として、外出や外での活動をどのように展開していくのか、今後の課題であるが、強みや特色を生かした活動を目指していきたい。

・ひだまり班は、月のプログラムを作成しているが、利用者の体調面に大きく左右されやすい。全体で参加できる活動が少ないため、ほぼ個別の活動提供に近い状況である。1人ひとり興味や好きなことが違うため、活

動の枠にあてはめてもまとまりがない状況である。また、利用者にとどのように活動に参加してもらうか、どのような活動提供であれば楽しめるのか、利用者理解および職員の共通認識も課題である。

・行事については、花見・バーベキュー・慰労会を計画・実施することができた。利用者に参加していただくためにはどのような配慮や支援体制が必要なのか見直すきっかけとなった。利用者の個々の特色が違うため、同じ視点で物事を決めて行くにも配慮が必要であると思われた。

《Ⅱ-1-③ 障害者支援施設向陽園(医務)》

看護師 三上由香里

1, 当初目標

- ①疾病の早期発見と迅速な対応を行う。
- ②職員間の連携を大事にしながら、ひとりひとりの健康状態に合わせたケアを行う。
- ③感染症の集団発生を防ぐための手立てを見直す。
- ④利用者、ご家族への健康情報を提示し、不安の解消に努める。

2, 実施状況

①健康診断、インフルエンザ予防接種

実施日	項目	実施機関	人数	
5月8日	定期健康診断	検診センター	向陽園利用者 41名	
11月9日	山形市総合検診	山形市	向陽園利用者 40名	
5月～2月	利用者健康診断	至誠堂総合病院	GH利用者	
10月～1月	インフルエンザ予防接種	おかベ クリニック 上山病院 村岡医師	向陽園利用者 39名 GH利用者 15名 ひだまり利用者 6名 北部利用者 7名	向陽園・GH職員 82名

②その他

- ・毎月体重測定実施 対象者血圧測定実施
- ・年3回食事支援者腸内細菌検査(6月55名、12月58名、2月58名)
- ・往診…精神科医師1名で月2回、内科医師1名で月2回実施(検診フォロー)
- ・夏期、冬期帰省の準備(健康診断の結果、おしらせを作成・配布)
- ・通院時、検診フォロー実施
- ・園内利用者を対象に訪問歯科診療を実施(デンタルビジョンズ)

③平成29年度通院・入院状況

i, 入院

- ・検査入院 至誠堂総合病院 1名 7/7-7/12
- ・全身状態の低下 至誠堂総合病院 1名 7/15-9/5 逝去
- ・肺炎・水腎症 山形市立病院済生館 1名 8/26-9/8

ii, 通院

- ・僧房弁形成術後定期通院(月一回 おかベクリニック)
- ・腎不全の方の栄養指導を伴う通院(月一回 本町矢吹クリニック)
- ・てんかんセンター・糖尿病外来への通院(月一回 利用者9名 山形病院)
- ・療育センター歯科・その他歯科への定期通院(25名)
- ・皮膚科、耳鼻科・泌尿器科・婦人科・神経内科への定期通院

iii, 訪問歯科

13

うち歯科通院への移行3

怪我 ほのぼの記録上 のべ 60件(他者によるもの 27件)

- ・通院のべ421件 救急車要請 0件
- 内科52件 外科27件 整形3件 脳神経11件 てんかん85件
- 泌尿器8件 腎臓 11件 精神科 1件 歯科107件 訪問歯科90件
- 眼科0件 耳鼻科0件 皮膚科11件

3, 評価及び課題

・1名の利用者が逝去された。病が発見された時は、末期の状態であり、改めて痛みや違和感を言葉で訴えることができない方々への医療的な支援の難しさとともに、大切な命を預かる仕事の重さを痛感した。また、病院でのご本人と見守るご家族の姿から、「看取るということは、その方とご家族を含めて、生きる事を全うしていただくお手伝いをさせていただくことだと、改めて痛感した。

身体状況の変化を、見落とさず、検査していただくだけでなく、様子をさらに詳細に伝えられるよう、配慮していきたいと思う。通院時に伺うご家族の深く重いお気持ちも、真摯に受け止めながらより良い生活のため努力していきたい。

・3月に入り、インフルエンザの予防投与を実施する状況となった。予防接種率は利用者はほぼ100%、職員は体調等の理由から接種しなかった者もいたが、次亜水の散布や、手洗いうがいを含め、職員への感染予防研修が、職員の意識向上に少しでもつながっていくよう、次年度も継続して、啓蒙をはかっていきたい。

・訪問歯科検診を隔週水曜日に実施。訪問歯科を導入して3年となるが、日常的に来室者に口腔ケアを行う中で、歯肉炎の軽減が著明。口腔内の環境改善が見られている。その影響なのかはわからないが、発熱などでの通院が年間10件程度にとどまり、驚いている。また、通院が難しい方も、ステップをふみながら、歯科通院に移行できており、全身状態に影響を及ぼす歯の健康管理にさらに努めていきたい。また、歯磨きの自

立度についてアセスメントを実施し、ご本人の力を引き出しほめられることでの意欲や自主性を育てる事ができたらと思っている。一緒に口腔ケアを行いながら、スタッフの意識の向上へも取り組んでいきたい。

- ・持病のある方(腎臓病・糖尿病・痛風など)の健康管理を引き続き行う。また、往診や通院後の服薬変更情報をスタッフと共有し観察ポイントなどを明確にしていく必要性を感じる。

- ・外部事業所との連携強化を図るため、定期的に看護職員連絡会議を開催していきたい。

- ・自閉症カンファレンス2017に参加し、まだまだ学ぶこと、できることが沢山あることに気づかされた。健康診断や通院時に、可能な限り、不安を軽減し、拘束などせず自主的に受けていただけるよう知恵を絞っていきたい。

- ・日常的な支援スタッフの協力により、褥瘡の予防、肌の清潔など改善が見られた部分もあった。さらに、改善をはかっていけるよう、日ごろのケアを充実させていきたい。

- ・てんかん発作による怪我が数件あった。誘導時の心構えなど、改めて、意識化した支援が必要だと感じる。

- ・こだわり等から不衛生な居住環境の利用者については、早急にチームで対応策を考慮していきたい。

《Ⅱ-2 向陽園ショートステイサービス》

園長 加利屋裕子

1, 当初目標

- ①緊急ケースの受け入れを積極的に行う。
- ②困難ケースや障がいの重い方、自閉症スペクトラムの方の受け入れを行い、ご家族・ご本人のニーズに合わせたサービスを提供する。
- ③利用者が安全に安心して利用できるよう、環境・設備を整備するとともに、職員間の連携を大切にする。

2, 実施状況

①利用実績

《日中一時》

平成29年度	
平成28年度	
定員	概ね8名
	概ね8名
利用者延べ人数	213名
	230名
営業日数	365日
	365日
1日平均利用者数	0.58名/日
	0.63名/日
平均障がい支援区分	

※主に、土・日、休日に受入を行なった。

《短期入所》

平成29年度
平成28年度
定員

	4名
	4名
利用者延べ人数	506名
	537名
営業日数	365日
	365日
1日平均利用者数	1.39名/日
	1.47名/日
定員稼働率	34.8%
	36.7%
平均障がい支援区分	

・利用率としては、若干下回っているが他の法人の短期入所では難しい方の緊急時・長期的な受け入れを行った。

②運営状況

・新たに利用を希望する方々の受入を開始した。新規利用者を受け入れる際には、ご家族、ご本人に施設を見学していただき、施設を理解していただくとともに、ご家族からの聞き取りや、日中事業所での活動の様子を見させていただきながら、相互に理解し、合意の上で受け入れを行なった。

・日中一時事業に関しては、重度心身障がいをお持ちの方の利用が多いため、施設内では安全に過ごす場所がないことから、自活訓練棟を利用し、受け入れを行った。職員を1名配置しての受入であるため、職員の確保が難しくなっている。

・介護者等の不在により、緊急で受け入れなければならない、ケースもあったが、積極的に受け入れを行なった。ご本人自体、疾病を抱え、病院への緊急搬送も頭に入れながらの受入であったが、アセスメントを十分に行いながら、万が一の場合を想定し、体制を整えながら受け入れを行なった。

・苦情等については、私物の紛失についてのご意見を多くいただいた。複数の職員がローテーションで支援を行なう体制であり、管理をどのようにしていくか大きな課題である。また、情報共有のミスも多く苦情へと繋がっている。予約の調整についての苦情もあり予約漏れがないように、ダブルチェックを行い、間違いがないよう取り組んでいる。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	0
利用者間のトラブルによる怪我	0	0
転倒等による怪我	0	0
車の事故、破損	0	0
誤投薬・未投薬	2	0
施設・事業所からの離脱	0	1
その他	2	1

・未投薬について、受け入れ時にバックの中の物がそのままになってしまい、夕食後薬の服用を怠ってしまった。

・薬箱に薬がセットされておらず、職員の確認不足により、ロングショートステイの利用者の朝食後薬が未投薬になってしまった。2件の未投薬については、職員の不注意が一番の問題となっている。再度、服薬の徹底について周知し、週間受け入れ表に利用者の服薬状況を記載し確認できるよう対応を行った。

3, 評価及び課題

・現在、短期入所の居室として、2人部屋2室を用意しているが、個室希望の方が多くなっており、緊急時には、空きスペースにベッドを移動して、利用してもらっている状況である。

・様々な苦情・ご意見をいただいたが、解決には、全職員が利用者状況を把握し、理解することが大切だと考えるが、様々な職員が関わり成り立っているような状況もあり、紙ベースでのやり取りにも限界があるように感じられる。周知の仕方を検討していきたい。

荷物の紛失に関しては、荷物の保管場所の確保や引き継ぎの徹底で防ぐことが可能なので、対応していきたい。

・新規利用者の受け入れを、少しずつ行っている状況にある。施設内の状況や居室確保の課題もあるが、今後も、ご家族の聞き取りやご本人の状況を把握していきながら、ニーズに沿った受け入れができるように対応していきたい。

《Ⅱ-3 グループホーム支援センター向陽園》

所長 加利屋裕子

1, 当初目標

- ①1人ひとりが地域の中で「わたしらしく」生活が送れるよう、ライフスタイルを自分で選択し決定しながら生活を営む事が出来ることを目指す。
- ②利用者の安心安全で楽しい暮らしを支えるため、スタッフ間のコミュニケーションを強化し、互いに信頼し意見交換できる関係性をつくる。

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	17名	17名
利用者延べ人数	5,786名	5,795名
営業日数	365日	365日
1日平均利用者数	15.8名/日	15.9名/日
定員稼働率	92.9%	93.5%
平均障がい支援区分	4.5	4.5

・年度内に2名が退所し、1名が新たに入居した。

②運営状況

- ・利用者ニーズの把握のため、再アセスメントを行なった。様々なことを体験する機会として旅行などを行なった。歯科や整形等の病院への通院に関しては、ご本人と相談し、ホーム近くの病院に変更し、付添職員がいなくとも、1人で行けるように調整を行なった。
- ・障がい特性や理解度に合わせたコミュニケーションツール(写真やカード、スケジュールなど)を使用し、生活のあり方、外出等について話し合いを行なった。
- ・西の家に関しては、様々な職員が支援にあたるため、健康面に関しての利用者情報をまとめ、シートにし、情報の周知に努めた。
- ・地域の行事については、積極的に参加するよう努めてきた。上山のグループホームみるく・くれよんについては、地域の方々に認知してもらえようになったのか、様々な地域の行事や町内会の集まりなどに誘っていただけるようになった。
 - 西の家…地域清掃、西山形文化祭、西山形地区夏祭り、雪祭りなど
 - みるく・くれよん…地域清掃、敬老会、合同祭りなど
- ・向陽園で行われた「感染症対策」の研修会に世話人も含め全職員で参加した。
- ・家族会の担当父兄と定期的に打ち合わせを行い、芋煮会、奉仕活動、懇談会(国際ホテル)を行なっ

た。

・事業所会議で全スタッフに利用者との関わりの中での「ニヤリホット」エピソードを1分スピーチで話してもらったこととした。チームとして情報を共有するとともに、利用者の理解を深める機会となった。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	0
利用者間のトラブルによる怪我	0	0
転倒等による怪我	2	5
車の事故、破損	0	0
誤投薬・未投薬	4	3
施設・事業所からの離脱	0	1
その他	1	0

・後見人の方より、利用料請求、領収書が滞っているとのご意見をいただいた。すぐに謝罪を行い、遅滞なく送付するように改善した。

3, 評価及び課題

- ・当初目標については、ほぼ達成したと思われるが、計画内容を見直し、取り組んだ事柄もあった。
- ・他ホームより認知症の方が入居、また新年度には難治性てんかんを持つ方も利用を予定している。支援体制の見直し、緊急時の対応マニュアル等の再検討が必要である。
- ・利用者1人ひとりと今の「暮らし」を振り返りながら、将来の「暮らし」について考える機会を作っていきたい。ホームを離れての1人暮らしや暮らしたい場所・家……、利用者がイメージできるような取り組み、手立てがなにか、検討していきたい。
- ・利用者の生活がより豊かなものになるよう、社会資源を把握するとともに、様々な社会資源(地域町内会、市社協、自立支援協議会、福祉サービス事業所、行政機関など)、人とネットワークを築いていく。

《Ⅱ-4-① デイサポートたんぽぽ工房》

所長 加利屋裕子

1, 当初目標

- ①多様なニーズに対応していくため、休日営業を実施する。
- ②権利擁護、意思決定支援への学び(研修・研究)を行い、実践していく。
- ③販売先の拡大や広報活動を行い、工賃アップを目指す。
- ④障がい者芸術活動推進センターの運営を行なう。

2, 実施状況

①利用実績

平成29年度	
平成28年度	
定員	20名
	20名
利用者延べ人数	5,455
	5,327
営業日数	253日
	242日
1日平均利用者数	21.6名/日
	22.0名/日
定員稼働率	107.8%
	110.1%
平均障がい支援区分	4.6
	4.6

- ・学校からの実習や見学等の受入を積極的に行った。次年度新たに1名利用していただけることとなった。
- ・移動等の身体面での低下のため、1名の利用者が他事業所に移動となった。スムーズに移動できるよう、事業所、ホームとの情報交換に努めた。
- ・年齢の若い利用者が多くなり、事業所も手狭に感じられるようになってきている。

②運営状況

i, 販売活動

- ・利用者の参加を募り、「さくらマルシェ」(5～11月)や関係機関の催し等に参加し、販売活動を行なった。
- ・福祉センターや「とかみふれあいセンター」、村山合同庁舎の常設販売については、午後の活動時間に納品や集金等を行い、地域、社会との繋がりの中で「働く」、「仕事をする」という意識を持ってもらうように努めた。
- ・今年度初めて至誠堂ケアセンター「オレンジカフェ」に参加し、たんぼぼ工場の活動を紹介した。日中の活動の様子や作品の紹介等を通して社会との繋がりを持つことができた。
- ・月一回の村山合同庁舎での体験販売会への参加を実施し、社会経験の場を持つ事ができた
- ・日々支援の中で、「アセスメント
の視点を持ち、利用者の状況変化やその時々
の想いを汲み取り感じながら職員間で相談・支援の方向性を確認し、「夢」「希望」に向け工夫しながら支援した

ii, グループワークの実践(意思決定支援)

- ・行事、イベント、旅行等、利用者の方より実行委員を募りその中で「計画」「準備」「実施」に関しても利用者が主体となり中心に取り組めるよう支援した。

iii, 活動について

- ・午前中は「手織り」「キャンドル」「個別活動」を中心に、午後の活動では、「カラオケ」「乗馬」「運動」「外出」「散歩」「セルフクッキング」「季節の行事」等の活動を利用者に提案し、実施することができた。

iv, 工賃について

- ・工賃支払要綱を見直し、出席日数に応じて工賃を支払うこととした。今年度は、4か月ごとに年3回支給、昨年度以上に販売活動の機会が広げられたことで売り上げが向上し、工賃をアップさせることができた(利用日数により、個々人で異なるが、多い方で2,0000円前後)。

v, ボランティアについて

- ・新しい縫製ボランティアさんを2名、お願いすることができた。

vi, 防災・避難訓練について

- ・火災を想定した訓練を2回、地震を想定した訓練を1回実施した。

vii, ご家族との交流会・親睦会について

- ・交流会・懇親会を実施し、ご家族の方々との交流を深めることができた。

viii, 日帰り旅行・一泊旅行について

- ・利用者より実行委員を募り、旅行を計画し、実施した。7月15日に日帰り旅行として、宮城(9名参加)に、10月7日～8日一泊旅行で岩手(12名参加)に出かけた。

ix, 研修について

- ・職員研修、視察研修については、計画通りに実行できなかった。また、「権利擁護を利用者と共に学ぶ」ということを研修テーマに掲げたが、実行できなかった。

x, 展示会参加について

- ・市民展に出品することができた。

※「障がい者

という枠組みの展示会だけではなく、地域社会で生活する1人の人間として、一般の公募展にチャレンジした。受賞はできなかったが、出品という形で社会参加したことが利用者の作品作りへの意欲向上に繋がるとともに、幅広い人間関係を構築する機会となったのではないかと思われる。また、一般の公募展に出展することで、多くの方に地域の中で「私らしく」生き活きと生活されている人たちがいることを知ってもらえる機会になったのではないかと感じた。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	1	1
利用者間のトラブルによる怪我	0	2
転倒等による怪我	0	2
車の事故、破損	2	2
誤投薬・未投薬	0	1
施設・事業所からの離脱	3	2
その他	3	4

3, 評価及び課題

- ・当初目標については概ね計画通りに実施し、達成できたのではないかと思われる。
- ・行事・イベント等、意思決定支援を実践した結果、利用者の方々の表情にも笑顔が多く見られ、達成感や喜びに繋がられたのではないかと思う。また、利用者同士一緒に取り組むことで他者と協力する力が養われ、他者を思いやる気持ちを養うことができたのではないかと思う。
- ・手織り・キャンドル作り・個別活動においては、利用者1人ひとりの自己表現を大切にし、その方らしさを引出していけるよう、関わりや支援を職員間で共有し、統一した支援ができるように努めた。
- ・販売については、その都度利用者に情報を伝え、希望を募り実施したが、長時間参加が難しい方々についても、できるだけ参加し、社会経験が持てるよう、職員体制を作っていく必要があると感じた。
- ・有償での縫製ボランティアについては、今後も継続して募集していきたいと考えるが、お支払する額が不明確なため、料金表等を作成し、説明ができるように準備したい。
- ・新しい場所に移って2年、地域住民との繋がりが不十分と感じられる。地域のイベント、行事等に参加しながら、事業所・利用者を知ってもらい、理解してもらえるように働きかけを行なっていくとともに、活動の中で、「散歩」や「ゴミひろい」等を行い、交流の中で信頼関係を築いていけるよう働きかけを行っていきたい。
- ・ご家族との交流会・親睦会については、お便りを配布したり、事前にアンケートを行ったりしながら実施し、情報交換、親睦が深められるようにしたい。また、信頼関係の中で、ご家族の悩みや心配事が少しでも軽減されるようにしていきたい。
- ・室内活動では、準備が上手いかず、「塗り絵」「絵描き」等、単一の内容のものになりがちであった。今後、活動を検討し、しっかりと準備ながら、活動を提案していきたい。
- ・20代の利用者が多くなっていることから、研修については、「思春期」から「青年期」の利用者の、他者との

関係づくり、そのための関わり方、支援方法等の研修、学びを行なっていきたい。

《Ⅱ-4-② やまがた障がい者芸術活動推進センター ぎやらりーら・ら・ら》

加利屋裕子

1, 実施状況

●障がい者芸術活動推進センター設置事業

平成29年4月1日～平成30年3月31日

10:00～17:00 日曜日・祝日 休館

●障がい者芸術活動推進センター運営検討委員会設置事業

・平成29年6月27日 第1回運営委員会

・平成30年2月19日 第2回運営委員会

●障がい者芸術作品展示事業

○センター展示

1 枝松保明作品展 古+展

平成29年4月17日～6月10日 来場者数 約120名

2 齋藤勝利作品展

平成29年6月19日～7月31日 来場者数 約100名

3 武田篤書作品展

平成29年8月25日～9月15日 来場者数 約100名

4 第55回県民芸術祭参加事業

やまがた障がい者アート展

平成29年9月18日～10月31日 来場者数 約120名

5 第2回やまがた障がい児者アート公募展

平成29年11月15日～12月27日 来場者数 約130名

6 みやぎ・やまがたこだわり交差展

平成30年2月7日～3月15日 来場者数 約150名

状況及び課題

ギャラリーの存在自体が未だ十分に周知されておらず、興味を持ってもらえる人はまだまだ多くいらっしゃるようと思われる。今後の情報発信の仕方を考える必要がある。

出展作家本人、ご家族、知人の方が見に来てくださることが多々あり、笑顔で鑑賞される姿を目の当たりにすると、運営している側としてはとても嬉しい。こういった場面をさらにたくさんの人と作り上げてい

きたい。

○外部での展示

1 市役所障がい者アート展

平成 29 年 7 月 10 日 ～ 7 月 15 日

場所:山形市役所 1 階エントランス

2 加藤仁美作品展

平成 29 年 8 月 5 日 ～ 8 月 24 日

場所:七日町テナント

来場者数 約 150 名

3 やまがた馬まつりでの展示

平成 29 年 9 月 24 日

場所:県民ふれあい広場

4 巡回展1

平成 29 年 10 月 17 日 ～ 10 月 23 日

場所:イオンモール山形南店

5 巡回展2

平成 29 年 11 月 6 日 ～ 11 月 12 日

場所:イオンモール天童店

6 県庁障がい者アート展

平成 29 年 12 月 1 日 ～ 12 月 15 日

場所:山形県庁 1 階ジョンダナホール

状況及び課題

七日町での展示会は花笠まつりの時期と合わせたということもあり、大変多くの方に作品を見ていただくことができた。職員も常駐していたので直に多くの感想・意見をもらうことができ、とても良い経験となった。その他の外部での展示に関しては、現場に足を運ぶのは搬入出時のみになってしまったが、外部展示を見てギャラリーの存在を知り、足を運んでくださる方もいた。

●その他障がい者芸術の振興に資する事業

○ワークショップ「つくってかざろう！海のなかまたち」の開催

会場:ぎやらりーら・ら・ら

講師:東北芸術工科大学 准教授 松村泰三

午前の部 10:00 ~ 11:30 参加者 24名

午後の部 13:30 ~ 15:00 参加者 28名

状況及び課題

定員20名のところ、2回ともに定員を超える人数の方が参加してくださり、障がいのある人無い人が入り交じり、会場は賑やかになった。

ワークショップの内容としては、障がい者を対象にしては少々難しかったようで、制作の進む速度に差が生じた。ワークショップ終了後講師と話し合い、スタッフがどこまで手伝うか、どこまで準備するかなどの意見が出た。次回のワークショップへ生かせる反省点も見える機会となった。

《Ⅱ-5 デイサポートさくら》

所長 加利屋裕子

1, 当初目標

- ① 多種多様なプログラムを準備し、分かりやすい情報の提供をすることでご自身が選択できることを目指す。
- ② 様々な障害を持つ方が所属するため、専門的な支援・介護を学ぶ機会を設け、現場実践に繋げる。
- ③ 地域に溶け込み活動を展開できる事業所作り。

2, 実施状況

① 利用実績

	平成29年度	平成28年度
利用者定員	20名	20名
年間利用者延べ人数	4,977名	4,687
年間稼働日数	240日	240日
平均利用者数	20,7	19,5
平均稼働率	103.7%	97.5%
平均障がい支援区分	4.8	4.7

・利用者の退所や異動はなかった。

② 運営状況

・午前中は、リサイクル活動・薪づくり・個別活動に分かれ働くことを意識した活動提供を行い、午後は散歩やドライブ・リサイクルセンターへの納品など楽しみを入れながらの活動を提供した。
利用者間のトラブルや、飛び出し等が見られることはあったが、個別的な取組みや対応等により落ち着いて

活動に取り組む姿がみられている。

・利用者の意思を大切に、活動や行事の場面で選択できる機会をできるだけ、多く設定できるように配慮しながら支援を行った。

・事業所便りを発行し、地域の方に配布し、事業所の活動を知っていただくようにした。また、地域のお祭りや行事に参加し、利用者、職員共に地域の方かだとの交流の場面を増やした。

・年齢も障がいの支援度も多様な方が利用されているため、支援力向上研修、視察研修等に参加し、職員の支援力向上に努めた。

事故の状況 内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	2
利用者間のトラブルによる怪我	0	3
転倒等による怪我	2	0
車の事故、破損	2	2
誤投薬・未投薬	0	0
施設・事業所からの離脱	13	11
その他	0	0

3, 評価及び課題

・午前中は「働く」ことを意識した活動、午後は「楽しみ」「遊ぶ」ことを含んだ活動とメリハリのある活動を提供したことで、利用される方も意欲的に取り組めたと考える。様々な障がいや年齢の方が利用する事業所であるため、1人ひとりに満足していただけるよう、次年度も研修などで学んだことを活かした活動となるよう努めていきたい。

・近隣商店での迷惑行為が多いため、日々の打ち合わせだけでなく、その都度、事業所外の職員にも参加してもらい、ケース会議等を開き、意見交換しながら、支援内容を検討していきたい。

・事業所便りを発行し、地域の方々にさくらの状況及び活動を知っていただくことで、利用者への理解も進み、

地域と交流する機会も増えてきている。次年度も大切にし、取り組んでいきたい。

《Ⅱ-6 多機能型就労事業所エコファームもとさわ(就労継続支援事業所A型)》

所長 八柳 律子

1, 当初目標

- ①意思決定を大切にして、各種会議への利用者の参加は、必須とする。
- ②利用者雇用分の実収益を確保し、生産体制の強化を図る
- ③実収入確保のため施設外就労を目指す。

2, 実施状況

①利用実績

平成29年度	
平成28年度	
定員	10名
	10名
利用者延べ人数	2,560名
	2,465名
営業日数	241日
	241日
1日平均利用者数	10.6名/日
	10.1名/日
定員稼働率	106.2%
	101.8%
平均障がい支援区分	

・10名の定員に対し11名の方が利用(従事)した(暖炉用薪製作・受託事業に9、清掃業務受託に2名)。

・従業員の年齢は、21歳から61歳と幅広く、平均年齢は44.7歳となり、年々平均年齢も上がってきているため、働き方などに課題が見られるように思われる。

②運営状況

・インターネットでの価格表示の訂正が遅くなり、インターネットの販売価格と請求金額が違っているとの苦情

をいただいた。

・東北造園工業株式会社より公共施設(市管理公園・浄水施設)の除雪及び雪囲いの受託を受けることができた。全従業員が実施することのできる運搬作業等もあり、刈られた草を運び出すなど視覚的にもわかりやすい仕事であるため、従業員にも解りやすく、スムーズに仕事が進んだ。

・継続的に実施している暖炉用薪の販売も気温低下の気象状況もあり販売量も増えた。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	0
利用者間のトラブルによる怪我	0	0
転倒等による怪我	0	1
車の事故、破損	0	2
誤投薬・未投薬	0	0
施設・事業所からの離脱	0	0
その他	2	1

3. 評価及び課題

・収入の確保のため、施設外労働を目指していたが、受託の事業と重なってしまい施設外労働の事業を実施することが出来なかった。受託事業を行なうことで、収入も上がり、従業員の仕事への意欲も向上したように感じられる。次年度も引き続き受託事業を行なっていきたい。

・暖炉用の薪の販売において提示価格の誤りがあったが、訂正に時間がかかってしまい苦情をいただいた。法令に抵触する恐れもある事柄であり、法令を順守し、販売を行なっていかなければならないと強く感じた。販売については、ロコミ等で注文をただいているが、注文をいただいている方に関しては、社会福祉法人が実施している等とは関係なく消費者と生産者販売者との関係になってきているため、意識して販売を行なって行かなくてはいけないと感じる。今後の課題である。

《Ⅱ-10 向陽園地域生活支援センター心音》

所長 村上 実

1, 当初目標

- ①事業所が中心となって専門部会を開催できるような働きかけ、意識付けを行う。
- ②行政との連携(温度差が無くなるように理解と協力を得る。)
- ③当事者主体で各駅停車の会が運営できるように、運営補助を行う。
- ④アセスメントの精査
- ⑤ストレングスアセスメントの理解と実践

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
利用者数(者)	291名	290名
利用者数(児)	75名	60名

・利用者数については微増である。他事業所への変更、転居、サービス終了、死亡等で減るケースもあるが、新規依頼も多く受けている。また、新規依頼を受けても、手一杯となり、断らなければならないことも多くあった。山形市内の他の相談支援事業所も同じような状況であるため、山形市全体での相談支援専門員の増加が今後の課題と思われる。

②運営状況

- ・心音グループで年2回の内部研修を行なった。前期が「アンガーマネジメント」、後期が理事長を囲んでの座談会を行った。会議等は計画通りに実施できた。事故、苦情等はない。
- ・グループスーパービジョン(GSV)は委託支援事業所、委託以外、天花と合同、と数多く持てた。
- ・自立支援協議会では、事務局会議を毎月行い、山形市における課題の検討を行った。特に今年度は、移動支援部会を中心に移動支援の単価改正に取り組み、30年度より、介護ありの単価を設けてもらえることとなった。また、地域生活拠点については、継続して話し合いを行なっている。
- ・高齢分野との連携として、介護分野の総合相談部会に参加し、情報共有を行った。また、包括支援センターからの同行依頼も多く、高齢の親とサービスにつながない障害者のみの家庭の問題が表面化してきている。
- ・単身生活者、精神障害者等の個別支援が増えている。具体的には投薬支援や金銭管理、安否確認等である。また、頻繁な電話連絡で情緒の安定につながる方も多く、1日に何度も電話をされる方や、土日休日等の電話対応が必要な方も増えている。

3, 評価及び課題

- ・概ね計画通りに行えた。
- ・今年度よりスタートしたグループスーパービジョンについては、従来の事例検討より相談員のやる気につながる手法であると実感できたので、今後も継続したい。
- ・各駅停車の会では、一部ボランティアの活用を行った。今後も学生等への働きかけを行い、ボランティ

アを活用することで職員の負担を減らしていきたい。

- ・地域生活支援拠点の検討については、30年度も引き続き、事務局会議で検討を行っていくことになっている。また、拠点の話と並行して山形市として基幹をどう考えるかも今後の検討事項である。
- ・中高年のひきこもり(8050問題)について、今後も包括支援センター等と連携を行っていく必要がある。
- ・単身者、精神障害者等の個別支援については、地域定着支援等の利用も考え、実働に対してきちんとした評価ができるようにしていきたい。

《Ⅱ-8 向陽園ホームヘルプステーション心音》

所長 村上 実

1, 当初目標

- ①利用状況(利用形態・障害特性)が多様化してきた中で、より充実したサービスが提供できるよう一つひとつのケースに対しての振り返りを行いながら利用満足度の向上を目指す。
- ②関係機関と連携を取りながら、移動支援事業の報酬見直しに向けた取り組みをすすめ、移動支援事業を安定して展開できる地域作りを目指す。

2, 実施状況

- ①利用実績(延べ利用人数) 稼働日数:365日

	平成29年度	平成28年度
居宅介護	915名	1,025名
行動援護	590名	518名
同行援護	215名	170名
重度訪問介護	0名	0名
移動支援	1,419名	1,917名

- ・ヘルパーの異動などもあり、稼働件数が大きく減少したサービスもある。
- ・新規契約は最小限に抑え、既存利用者の方の支援を中心に充実化を図った。定期利用の方ではほとんどスケジュールが埋まる状況であり、とくに女性の方は固定利用の家事援助を多く抱えているため、新規利用の受け入れは難しい状況である。
- ・短時間支援も多くなり、平日も効率的にスケジュールが組める部分が多くなった。

- ②運営状況

- ・新規利用者の受け入れを制限してきた中で、これまでのケースの充実化を図れるよう関係機関とも調整を行ってきた。現状を振り返る機会を持つことができ、より支援の満足度を高めることができた。
- ・男性は移動支援・行動援護、女性は家事援助が主となってきており、事業所の特色も出ている。重度の方の受け入れや車での移送など、心音でしかできない部分を出していきながら事業所運営を行ってきた。重度訪問介護は現状受け入れが難しいが、同行援護は定期的に安定した利用状況にある。
- ・サービス提供責任者のもと、現場の課題や悩みなどをすぐに話せる環境作りに努め、迅速に対応した。
- ・関係機関が連携し継続して働きかけを行ってきたことで、山形市の移動支援単価改定に繋がった。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	0

利用者間のトラブルによる怪我	0	0
転倒等による怪我	0	2
車の事故、破損	2	5
誤投薬・未投薬	0	0
施設・事業所からの離脱	0	0
その他	3	0

3, 評価及び課題

・次年度(平成30年7月分請求分より)からの山形市移動支援単価改定が決定し、これまで一律だった報酬単価に「身体介護あり

が認められることになった。現在、重度の移動支援利用者の方が多いため、単価改定により安定した事業運営が今後可能となる。全利用者がこれまでとは違った単価となってくるため、しっかりとした事前準備のもと、混乱なく進めていけるようにしたい。

・車両事故が多く発生してしまったため、定期的な安全意識の確認を行っていく。とくに初めて訪問する場合など慣れていない道を通る場合などは、事前の確認と余裕を持ったスケジュール設定を行うようにしたい。

・移送のみの依頼も多くなっており、契約時にきちんと説明を行った上である程度のガイドラインを設ける必要がある。緊急性を要するケースもあるため、その時々での柔軟な対応は継続したい。

・運営規程では、「通常の事業の実施地域」を山形市、上山市、山辺町、中山町としているが、利用希望があるため、現在は、天童市にも職員を派遣し、サービスを提供している。東根市、河北町からも依頼があるが、移動時間を考えると、天童までが限界である。北村山方面からの利用希望も多く、ニーズに応えるためには、天童市内への事業所設置も検討が必要と思われる。

・今年度は業務優先になってしまうことが多かったため、個々の課題に添った研修への参加を積極的にすすめていきたい。

・必須となる従事者研修が多いため、事業展開を見越した計画的な人材育成が必要である。

《Ⅱ-9 グループホーム支援センター心音》

所長 村上 実

1, 当初目標

- ①社会福祉協議会(福祉のまちづくり・福祉まるごと専門員)と連携し、地域住民との交流を図れる場を設ける。
- ②ホームごと年に1回地域住民に参加してもらい避難訓練を実施する(利用者と職員のための避難訓練も年に1回実施)。
- ③利用者の意思決定を大切に、個別支援計画作成に際しては必ず利用者参加によるプラン会議を実施する。また、世話人も個別支援計画内容を共有し、連携して支援する。
- ④「どこで」「誰と」「どのように」生活したいのかを自分で選択できるよう、他グループホームの見学や体験入居の実施と、現在住んでいるグループホームの地域にある資源を、経験を通して知ってもらう。
- ⑤「どこで」「誰と」「どのように」生活したいのか、一人ひとり半年に一度以上アセスメントを行い、ホーム単位ではなく、その方の希望する過ごしやすい住環境となるよう努める。
- ⑥南部センター会議・支援会議・居住系会議を月に1回実施し、課題を共有して迅速に対応できるよう努める。

2, 実施状況

①平利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	30名	30名
利用者延べ人数	10,567名	10,034名
営業日数	365日	365日
1日平均利用者数	28.9名/日	27.4名/日
定員稼働率	93.9%	91.6%
平均障がい支援区分	3.5	3.8

・在宅生活への移行や病気による急死等で契約終了となる利用者がいたが、居住系で情報のやり取りを密にしなが、できる限り空所期間が短く、また、グループホームでの生活を希望されている方に入居してもらえるよう努めた。

・加齢等によるご本人の状況変化により、ご本人の状況にあった環境、職員体制のホームに移動することが必要な利用者もみられている。居住系サービス間での話し合いを行ない、次年度移動する予定とした。

・精神障がい者の利用が増え、どのように対応すべきなのか、支援に戸惑うことが多くあったが、担当職員1人で抱え込まないようにし、全職員で話し合いを繰り返しながら支援を行なった。

世話人に、支援の方向性やどうしてそのような支援が必要なのか、理解してもらえないこともあった。

②運営状況

・町内会総会、一斉清掃、夏祭り、地域の防災訓練等、各ホームの町内会行事に利用者と共に参加した。

- ・社会福祉協議会(福祉のまちづくり・福祉まるごと専門員)に、町内会を通して地域住民にグループホームを知ってもらえるよう相談した。
- ・1人で買い物に出かける利用者もおり、店側と利用者についての情報等についてやり取りを行なった。買い物に来られる方がどのような方なのかを理解してもらいながらお店を利用することができた。また、課題を整理しクリアしていくことで、本人が望む1人での外出を実施することができた。
- ・向陽園管理栄養士を講師に招き、調理教室を通して世話人の勉強会を開催した(世話人8名参加)。
- ・個人の希望を聞きながら、個人旅行を実施した。また、東北地区本人大会へ利用者4名(職員2名)で参加した。その他、希望に沿った小グループでの旅行を実施した他、他事業所のグループホームと合同で東京方面へ旅行した。
- ・心音グループ合同研修会を前期と後期で1回ずつ開催した。研修会内容について総括リーダー支援員を中心に話し合い、後期では、ヘルパーや世話人も含め、職員それぞれが感じていることを話し合うことができた。
- ・高齢者が多く生活する一方で、30歳代や20歳の発達障がいの方もおり、多様な支援が求められる事業所となっているが、若年利用者の性の問題や金銭等のトラブルなども顕在化してきている。利用者の価値観と職員の価値観との間のジレンマ、これまでの支援方法では対応できないもどかしさ、生命の尊重と本人の意思、家族の意思、現実の課題等々、意思決定支援、本人中心支援という方向性とのギャップなどに職員が悩むことが多い1年でもあった。実践を行ないながら、1つひとつ検討していきたい。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	0
利用者間のトラブルによる怪我	0	0
転倒等による怪我	0	4
車の事故、破損	0	0
誤投薬・未投薬	2	1
施設・事業所からの離脱	3	0
その他	5	6

3, 評価及び課題

- ・1人ひとりが望む「生活環境」「生活様式」「生活リズム」となるよう、世話人会議で支援の方向性等について毎月話し合いを実施しているが、食事や入浴等を1人ひとりがやりたい時間にできるような体制が作れていない部分があることや、時間食事時間が献立作りに利用者が参加できていないこと等、1人ひとりの生活スタイルに合わせた支援について課題がある。
- ・毎月の支援会議の他、心音グループ会議と居住系会議を実施し、課題を共有して迅速に対応できるよう努めた。事業所単体ではなく、事業所間で支え合いながら課題解決ができています。また、横のつながりを大切

にし、横断的に勤務等で協力し合うことで、限られた職員数であっても支援の質向上に努めることができた。

- ・平成30年度に2か所グループホームが開所するにあたり、現在のご本人の身体状況に生活環境が適しているのかを繰り返し話し合い、ご本人の希望を第一とし、より充実した環境のグループホームへ引っ越しを検討してきた。様々な視点で検討し居住場所を選択しているが、利用者が現在の住まいについてどのように感じているのかをきちんと把握し、「どこで」「誰と」「どのように」生活したいのか、その希望に添ってご本人が選んで決められる状況ではないと思われる。現在グループホームで生活されている利用者の生活の質を向上させる支援ができるよう努めていくのと同時に、他グループホームへの引っ越しを希望される方が自分の住まいについて自由に選択できる環境づくりにも努めていかなければならないと感じた。また、軽度の自閉症スペクトラム、ADHD等の発達障害の支援を通して、その独特の課題と地域生活支援を体系化していく取り組みが必要である。

《Ⅱ－10 向陽園児童デイサービスふるふる》

所長 竹田 雅彦

1, 当初目標

- ①児童デイサービス月のひかり、ショートステイサービス月のひかりと連携し、利用児童の成長に伴う継続的な発達支援を行うと共に、多様なニーズを持った児童・家族に安心して選んでいただくことができ、児童、家庭、地域に必要とされるサービスを広く提供できるような事業所づくりを行う。
- ②児童発達支援事業のニーズを探り、必要な事業となれば展開を検討していく。
- ③安定した支援を提供できる体制を整えるため、人材確保、人材育成に努める。

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	10名	10名
利用者延べ人数	2,795名	2,640名
営業日数	289日	289日
1日平均利用者数	9.7名/日	9.1名/日
定員稼働率	96.7%	91.3%

- ・インフルエンザ等感染症の流行はなかったが、後半は体調不良等で大事をとって休むことが多く、稼働率が伸び悩んだ。
- ・行動の変容等により、マンツーマンに近い関わりが必要な児童も出てきたため、年度途中での積極的な新規利用児童の受け入れができなかった。
- ・現状として、他の事業所から途中で利用を断られたり、初めから受け入れてもらえなかったりした「行動障害」を持つ児童が多くなってきている。

②運営状況

- ・学校が休日や長期休みの際の活動プログラムについては、児童の要望も組み入れながら、提供した。また月のひかりと合同での活動も実施できた。
- ・重度の自閉症児童に加え、近年は「ADHD」や「アスペルガー」等の『発達障がい児』の利用も多くなってきている。行動障害を持つ児童も増えてきていることから、マンツーマンに近い関わりが必要となり、それぞれの児童に見合った活動の提供ができなくなってきている。
- ・支援困難なケースに関しては、自閉症等の支援に詳しい、法人内の職員にきてもらい、会議等を行ないながら支援を行なった。
- ・児童1人ひとりが楽しく過ごせるよう配慮しながら行ってきたが、スタッフ間でのやり取りが不十分であったため、児童の特性や特徴を共有し、支援を統一し、行なうことができなかった。また、マンツーマンでの対応が必要となることもあり、十分な療育支援ができなくなることもあった。
- ・児童期の支援はもちろんのこと、将来を見据えた社会生活スキルを子ども達に身に付けてもらうためには、職員研修が必要であるが、職員数との兼ね合いで、研修に派遣できないこともあった。
- ・事故・苦情とも、児童の特性、特徴を理解できていないことが、原因と思われるケースが多くあった。

・家族の支援、調整が必要と思われるケースが増えてきているが、事業所間の連携や相談支援事業所との連携等の調整スキルが、全体として不十分と感じた。

・家庭や本人から「楽しく過ごせればいい」と言った意見もいただくが、療育的視点が重要であり、支援のレベルアップが大きな課題である。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	1	0
利用者間のトラブルによる怪我	0	3
転倒等による怪我	2	5
車の事故、破損	0	0
誤投薬・未投薬	1	0
施設・事業所からの離脱	3	0
その他	2	3

3, 評価及び課題

・障がいが高く、支援が難しい児童を多く受け入れており、他の事業所との差別化、山形市内での立ち位置も明確になってきていると感じるが、児童1人ひとりに合った療育的な支援を提供しているとは言い難い現状にある。また、ぷるぷるから月のひかりに移り、利用する児童も多いが、相互の連携により、児童の成長・発達に則した支援が、十分に行えているとは言い難い現状にある。

・多様なニーズを持つ児童期への支援に対しては、支援する側も様々な知識や技術を持って関わる必要があるが、それを身につけるための機会が十分に確保することができなかった。知識や技術があれば対応する時にも、気持ちに余裕が持てるのではないかと思うが、状況判断が適切にできるというレベルにはない。習得する機会をどう確保していくかが、大きな課題である。人員数の課題もあるが、支援スキルの向上は不可欠である。

・苦情に関しては、職員間の情報の共有が不十分なことが原因であることもあったため、連絡ボード等を活用するとともに、頻回にやり取りを行ないながら、情報を共有し、改善に努めていきたい。

《Ⅱ－11 デイサポート月のひかり》

竹田 雅彦

1, 当初目標

- ①毎月1回利用者と面談を行い、支援や活動内容等に関する話し合いを実施する。
- ②事業所が所在する地域の商店や公共施設等を活用し、地区内での活動を増やしていく。
- ③高齢障がい者や精神障がい者への支援に際しての専門知識を習得する。
- ④行動規範順守を徹底し、利用者が安心して活き活きと過ごせるような事業所作りを行う。
- ⑤新規利用者の獲得を目指し、稼働率100%に近づける。

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	10名	10名
利用者延べ人数	1902名	2184名
営業日数	242日	241日
1日平均利用者数	7.8名／日	9.0名／日
定員稼働率	78%	90%
平均障がい支援区分	4.0	4.6

- ・男性利用者2名(入所施設、高齢者グ施設入所)、女性利用者2名(入所施設、通所介護施設利用)と契約を終了し、新たに男性利用者2名、女性利用者6名と契約を行なった。利用者の出入りが多い1年であった。
- ・在宅からの新たな利用もあったが、週に1～2回希望の方が多く、稼働率が伸び悩んだ。
- ・新規利用者の獲得の為に相談支援事業所とのやり取りを実施。身体障がい者、精神障がい者などの情報が多く、事業所の特徴・持ち味と利用者とのマッチアップの仕方に課題を感じることもあった。また、障がい程度区分が低い新規利用の方も多く、平均障がい支援区分も低くなっている。

②運営状況

- ・利用者の入浴、食事、排泄などスタッフ全員で申し合わせ丁寧な支援に心掛けてきた。高齢利用者の身体機能の低下が顕著に感じられ、身体機能に合わせてチームで検討しながら支援を行った
- ・飯田町内会いきいきサロンに定期的に参加し、利用者と地域住民との交流、社会参加の機会の確保に努めてきた。
- ・活動は、概ね計画的に提供できたと思われるが、後期に計画していた公共交通機関(バス)を使用した社会参加活動(外出)は、実施することができなかった。
- ・隣接する飲食店に依頼し、花植え活動で準備したプランター1個、鉢植え1個を店先に置かせていただき、利用者と共に定期的な水掛けを行った。

- ・研修に関しては、山形県社会福祉協議会主催の研修に2名が参加(2回)、その他の研修は、法人主催のリーダー研修への参加に留まった。
- ・年2回、総合避難訓練を生活介護、児童デイサービス合同で実施した。
- ・送迎中に1度、運転の仕方(車線変更時)について苦情をいただいた。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	0
利用者間のトラブルによる怪我	0	0
転倒等による怪我	0	1
車の事故、破損	0	0
誤投薬・未投薬	0	0
施設・事業所からの離接	0	0
その他	1	0

3. 評価及び課題

- ・大きな病気やケガもなく1年を過ごしてもらうことができた。利用者の身体状況・変化を職員皆で話し合い、共有するとともに、身体機能に合わせた丁寧な支援に心がけてきたことや、職員が気づいた小さな出来事もその都度ホームやご家族に伝えるように心がけてきたことが、要因ではないかと考える。
- ・認知症に近い症状が見られる利用者もおり、職員が戸惑う場面もあった。高齢者の理解とともに、介護力の向上に努めていきたい。
- ・利用者からの定期的な聞き取りはできなかったが、日々の利用者の活動状況を観察したり、会話から推察したりしながら、活動(内容)を組み立ててきた。意思決定支援は継続課題である。
- ・飯田町内会いきいきサロンに参加を続けてきたが、30年度からは、月のひかりの事業所を地域の「いきいき100歳体操」の場として使っていただくことになった。地域貢献の一つと思われる。また、蔵王地区包括センター職員や町内会長、民生委員との交流も広がってきている。こうした地域との繋がり、貢献が利用者の幸せに繋がるよう、更なる展開を考えていきたい。
- ・今年度は、相談支援事業所に新たに利用していただける利用者を紹介してもらうため、訪問したり、電話であいさつをさせていただいたりした。新たに利用したいとの問い合わせや、見学もあり、新たに利用していただけるようになった利用者もいた。今後も継続し行いながら、より多くの方に利用してもらえるように取り組んでいきたい。

《Ⅱ-12 児童デイサービス月のひかり》

所長 竹田 雅彦

1, 当初目標

- ①児童デイサービスふるふる、ショートステイサービス月のひかりと連携し、利用児童の成長に伴う継続的な発達支援を行うと共に、多様なニーズを持った児童・家族に安心して選んでいただくことができ、児童、家庭、地域に必要とされるサービスを広く提供できるような事業所づくりを行う。
- ②児童発達支援事業や日中短期事業等のニーズを探り、必要な事業となれば展開を検討していく。
- ③安定した支援を提供できる体制を整えるため、人材確保、人材育成に努める。

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	10名	10名
利用者延べ人数	3,121名	2,767名
営業日数	289日	289日
1日平均利用者数	10.7名/日	9.5名/日
定員稼働率	107.0%	95.0%

- ・状況:ふるふるから引き続き利用する中学1年生が多かったこと、インフルエンザなど感染性の病気などの流行で休む児童が少なかったこともあり、稼働率が上がった。
- ・課題:ふるふるから引き続き利用する児童の人数が多かったため、定員いっぱいとなり新規の受け入れが、できない曜日もあった。

②運営状況

i, 利用者支援

- ・困難ケースに関して、法人内の職員よりアドバイスを受け、ケース会議を行ない支援を行なった。
- ・毎日ミーティングを行い、利用児童の状況の確認や情報共有を行った。
- ・チームでの支援ができるように、毎月のプラン案会議では職員同士の意見を反映させながら、案を作成した。
- ・長期休みの際には、日々の活動を組み立てる担当者を決め、子供たちの意見も取り入れながら活動を組み立て提供した。担当者を決めたことで、職員1人ひとりが責任を持つとともに、協力しながら支援にあたることができたように思われる。また、これまでなかった新しい活動にも挑戦することができた(芋煮会、ふるふると合同でプラネタリウム、生活介護と合同で餅つき、本沢コミュニティセンターで卒業生を送る会など)。
- ・土曜日や長期休みの際、営業時間前に来所する児童も多く、その都度、時間外等で対応した。

ii, 研修

- ・山形市内の放課後等デイサービス5事業所(月のひかり、ふるふる、はとぼっぼ倶楽部、コロニー、ちゃお)で集まり、情報交換会を行った。
- ・職員がそれぞれ興味のある研修(児童虐待、思春期対応、発達障害児支援、ペアレントトレーニングアンガーマネジメント、支援力向上研修、視察研修等)に行くことができた。

- ・ご家族へ情報を届けることを視野に入れ、法人内の他事業所への見学を行った。
- ・9月の保護者会では保護者へアンケートを行い、保護者の興味のある事(グループホームについて、障害年金について)についての保護者懇談会を実施した。2月の保護者会では第三者委員を招き、事前に保護者から協力をいただいていたアンケートを元に、保護者と第三者委員との話し合いを行った。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	1	0
利用者間のトラブルによる怪我	5	2
転倒等による怪我	0	2
車の事故、破損	0	1
誤投薬・未投薬	1	2
施設・事業所からの離脱	1	1
その他	7	10

3, 評価及び課題

- ・困難ケースについて、法人内の職員にアドバイスしてもらい支援を行ったが、職員全体の支援の意識が高くなったように感じられた。対象児童の行動にも変化がみられる。今後も困難ケース等については、アドバイザー等に来てもらいながら支援を行なっていきたい。
- ・法人内事業所の見学を行なったが、高校卒業後の生活を心配している保護者や他事業所の職員に説明ができるようになった。
- ・山形市内の放課後等デイサービス5事業所での集まりを行なった。

《Ⅱ－13 ショートステイサービス月のひかり》

所長 竹田 雅彦

1, 当初目標

- ①より多くの児童が安心して利用できるよう働きかけを行いながら、受け入れ支援体制を整える。

②児童の日中預かり(日中短期入所事業)の実施を検討していく。

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	3名	3名
利用者延べ人数	1,372名	1,045名
営業日数	365日	365日
1日平均利用者数	3.8名/日	2.9名/日
定員稼働率(実質)	64.47%	54.1%
(稼働率有効人数)	(706名)	(593名)

・児童の母親が入院のため、16日間の長期利用があった。その際は学校と連携しながら、ショートステイの受け入れを行った。

・前年度は高校3年生の誕生日まで(18歳になるまで)の児童をショートステイで受け入れていたが、保護者からの要望もあり、高校3年生を卒業するまで受け入れることとした。そのため、利用人数が増えた。

・卒業までが利用可能となったため、金土日のショートステイ希望者が込み合い、断ることが多かった。

②運営状況

・法人外の相談支援事業所を通じて、ショートステイ利用希望者が増えている。

・小学低学年からの低年齢児童の利用者が増えている。

・母親等のレスパイトのための利用希望も多いが、母親と児童との関係性も考慮しながら受け入れを行なった。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	0
利用者間のトラブルによる怪我	1	0
転倒等による怪我	0	1
車の事故、破損	0	0
誤投薬・未投薬	1	1
施設・事業所からの離脱	1	0

3, 評価及び課題

- ・法人外の相談支援事業所を通じての新規利用が多かったが、スタッフ同士情報を共有し、事故なく、対応することができた。
- ・療育困難な母親などのケースもあり、児童の状況などを相談支援に報告し、情報の共有を行った。
- ・利用希望者が増えているが、定員オーバーで断るケースも増えている。
- ・日曜日等の日中短期(日中預かり)の要望も潜在的に増えているが、職員の調整がつかず、実施できていない。
- ・5月にショート利用児童の離設があった。2回目であり、対策として見守りの強化のほか、窓を全開できないような措置を講じた。

《Ⅱ-14 向陽園北部支援センター》

所長 山崎 薫

1, 当初目標

- ①意思決定しやすい環境の設定
- ②地域に愛される事業所づくり
- ③多様な活動の提供
- ④食の充実(食事の充実, 食に関する活動の充実)

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	20名	20名
利用延べ人数	5.669名	5.339名
営業日数	291日	292日
1日平均利用者数	19.5名/日	18.3名/日
定員稼働率	97.4%	91.4%
平均障がい支援区分	4.9	5.0

- ・既存利用者の、希望による利用回数増により利用延べ人数, 1日当たりの利用数が増となった。
- ・グループホーム転居に伴い、日中事業所変更のため登録利用者数は、1名減少した。
- ・利用環境や安全を考慮すると、現在の事業所容量や構造から、今以上の利用人数増は困難と思われる。活動を分散するなどの対応はしているが、利用者同士の接触やトラブルがみられ、事業所内が騒がしく、ゆったり過ごしていただける環境造りができにくくなっている。

②運営状況

- ・利用者支援については、行事や外出の際には企画段階から利用者に参加いただき、主体的に、選択して参加いただけるように配慮し、行なった。
- ・食の充実については、燻製作りや屋外での調理活動等、新たな活動を提供しながら、おやつ作りの回数を増やすなどし、利用者の要望に応えた。更に、メフォスの協力を得て、選択食の実施、バイキング食の内容改善、日常の食事メニューの改善を行ってもらった。
- ・地域貢献については、地区内の保育所との交流を継続して行った。また、地域散策活動を行いながら、近隣住民との顔合わせや挨拶を、無理なく、日常的に行うことができた。
- ・事故や苦情の発生時は即日中にスタッフ間で情報共有し、特に事故発生時は、物理的な改善など可能な限り早急な対応を行なった。

事故の状況 内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	1	0
利用者間のトラブルによる怪我	14	3
転倒等による怪我	5	5
車の事故、破損	4	2
誤投薬・未投薬	1	0
施設・事業所からの離脱	1	2
その他	1	4

3, 評価及び課題

- ・延利用人数、1日当たりの利用人数について、高く目標を設定し、達成するための動きをし達成した。
- ・重点活動と位置付けた食の充実については、多くの利用者が興味を持ち、より主体的に参加できたため、内容を工夫しながら継続して実施したい。
- ・提供活動について、障がいの重い方の活動参加と、働く活動の内容については成果が見える作業や分業して期間をかけて行う活動への改善など、改善と工夫の必要がある。
- ・地域貢献、交流活動について、現在の活動を継続しながら、新たな活動を計画しているが、『ムリなく継続しておこなってゆける』ものとしたい。

《Ⅱ-15 デイサポートにじいろ》

所長 山崎 薫

1, 当初目標

- ①意思決定支援および利用者中心、当事者主体のための具体的実践
- ②PCPの実践
- ③地域に開かれた事業所づくり
- ④にじいろの名に相応しい事業所づくり
- ⑤清潔で明るい雰囲気を感じられる事業所づくり

2, 実施状況

①利用実績

平成29年度	20
平成28年度	20名
定員	4, 158
利用者延べ人数	4, 129名
営業日数	242日
1日平均利用者数	17.18名／日
定員稼働率	17.06名／日
平均障がい支援区分	85.9%
	85.3%
	5.2
	5.2

・新規利用が2件(週5回と週2回)あったが、インフルエンザの流行や長期の入院、自宅療養等もあり、28年度と比較すると微増となっている(28年度は年度途中から2名減の状態が続いた)。

・30年4月からの新規利用も1件あるが、ここ数年は毎年現場実習が新規利用に結びついている。年度途中

での新規利用は予測がつかないものなので、現場実習をたくさん受け入れることが安定的な新規利用の獲得に繋がるのではないかと考える。

②運営状況

- ・利用者支援:にじいろ会議や普段の関わりを通して利用者の意思を確認し、主体性を尊重しながら活動や季節行事などを行った。グループ外出や小外出は、意思形成につながるよう、新たな経験を積むことを念頭において実施した。
- ・研修:各職員がそれぞれのキャリアに見合った研修に参加したほか、3名が視察研修に参加。事業所内研修は年4回の実施。
- ・地域とのつながり:新たなことに取り組んだ(読み聞かせボランティアの受け入れ、回覧板ににじいろだより、チーム鈴川、働く活動で作った葉:赤い羽根共同募金の際に配布、鈴川まつりで無料配布等)。
- ・事故・苦情:振り返りを通して全職員で状況について再確認し、共有することはもちろん、できる限り改善策事故防止策まで検討した。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	1	0
利用者間のトラブルによる怪我	0	0
転倒等による怪我	1	6
車の事故、破損	4	1
誤投薬・未投薬	3	1
施設・事業所からの離脱	3	0
その他	6	2

3, 評価及び課題

- ・利用者支援:今後の需要に応えるべく、働く活動を活動の中心に据えて再構築していく。また、利用者の年齢の幅が大きいため、若い方、高齢の方、それぞれに合った活動を提供していく。意思決定支援については、より細やかに対応していきたい。
- ・研修:各職員がそれぞれのキャリアに見合った研修に参加し、スキルアップすることができた。また、3名の職員が視察研修に参加することができ、そこで得たことを今後活かすことが期待される。事業所内研修は隔月での実施予定が一部こなせなかったため、開催の仕方について検討を要する。
- ・地域とのつながり:回覧板ににじいろだよりは隔月で年6回定期的に実施できたことは非常に評価できる。活動で作った葉を赤い羽根共同募金で配布、鈴川まつりで無料配布したところ好評を得たこと、新規ボランティア受け入れやチーム鈴川発足など、新たなことに取り組むことができたことは評価できる。今後も発展的

に継続していきたい。餅つきの際には民生委員の方にお手伝いいただいたが、その後民生委員の方々の勉強会の講師依頼が法人にあり、障がい福祉を知っていただくためのきっかけ作りができたことの意味は大きいと考える。

・事故・苦情:改善策、予防策については、常に検討していく。

《Ⅱ-16 グループホーム支援センターみらい》

所長 山崎 薫

1, 当初目標

- ①自己選択、意思決定を大切にした支援を行い、その人らしい生活が送れるようにする。
- ②地域行事への参加や関わりをとおして、地域に根ざしたグループホームづくりを目指す。
- ③支援員でチームを組み、業務の改善点、課題達成の具体的方法について検討し、サービスの向上に取り組む。

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	33名	33名
利用者延べ人数	11,715名	11,380名
営業日数	365日	365日
1日平均利用者数	32.09名/日	31.1名/日
定員稼働率	97.2%	94.5%
平均障がい支援区分	4.9	4.9

②運営状況

- ・地域との関わり:熊野神社祭り(つばさ、あすなろ)、はなだて・すまいる祭り、公園清掃活動への参加(よつば)、夏祭りへの参加(ひのき)
- ・高齢障がい者支援に関する研修会で、はなだて・すまいるの実践事例を発表した。
- ・骨折事故:誤投薬で入院(24日)、居室で転倒し骨折(112日)、指の骨折。誤嚥性肺炎、尿路感染症による入院があった。
- ・はなだて・すまいるは高齢者が多いため、体調管理に格段の注意が必要であった。
- ・意思表示される方には、希望に応じられるよう工夫ができた半面、意思表示できない利用者の想いを汲みとることが十分できているとは言えない状況にある(例えば、月1回の外出支援が目標通りできていないなど)。

事故の状況 内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	2	0
利用者間のトラブルによる怪我	0	1
転倒等による怪我	6	4
車の事故、破損	1	0
誤投薬・未投薬	誤投薬 6 未投薬12	7
施設・事業所からの離脱	2	4
その他	8	4

3, 評価及び課題

- ・障がい重い方々が生活するホーム群であるため、ほとんどが24時間体制での支援を必要としたが、職員皆で協力し、フル稼働で対応し、地域生活を支えた。
- ・身体機能等に変化が見られ利用者もいるため、利用者の状況をみながら、適した環境のホームに移動してもらう等の検討も今後必要と思われる。
- ・誤投薬・未投薬が年間をとおして発生し、基本マニュアルの浸透が図れなかった(頭で理解していても、対応が自己流になる)。
- ・連携、チーム力不足:事業所間の情報共有不足、伝達ミスが多く生じた。基本的なことができていない部分があり、繰り返しの指導が必要である。

《Ⅱ-20 あすなろショートステイサービス》

所長 山崎 薫

1, 当初目標

- ①地域で生活する障がい児・者のご家族及び本人のニーズに添ったサービスを提供していく。
- ②ご家族からの要望を聞き取り、要望に合わせたショートステイサービスを実施するとともに、ご家族から信頼されるサービスを提供する。
- ③利用者の障がい特性を理解し、適切な支援を実施する。支援内容については、確実に職員へ伝達する。
- ④出来る限り自宅と近い生活が出来るようにニーズの把握を行う。

2, 実施状況

①利用実績

平成29年度	1
平成28年度	1名
定員	357
利用者延べ人数	230名
営業日数	365日
1日平均利用者数	365日
定員稼働率	0・97名／日
平均障がい支援区分	0. 63名／日
	97. 8%
	63%
	6
	5

・1名の利用者の長期利用となった。インフルエンザに2度罹患(A、B)し利用休止があった。毎月数回1泊2日自宅で過ごしている。

②運営状況

・入退所時は口頭で生活状況を説明し、情報を交換した。

- ・他利用者との関わりでタッチを求める特徴があるので、関係性が良好となるよう支援上の配慮を行っている。
- ・入所時の持ち物点検が疎かになる事があるので、対応するスタッフがその都度気を付けなければならない。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	0
利用者間のトラブルによる怪我	1	0
転倒等による怪我	0	1
車の事故、破損	0	0
誤投薬・未投薬	0	0
施設・事業所からの離接	0	0
その他	0	0

3, 評価及び課題

- ・利用者間のトラブルで腕を傷つけることがあった。家族への報告が遅れ、不信感を募らせる結果となった。以後、報告を迅速に行い信頼関係づくりを大切にしている。

《Ⅱ-18 デイサポート天花》

所長 渡邊 則幸

1, 当初目標

- ①リサイクル活動で地域住民の方や隣の小学校へ資源回収の協力依頼をし、地域貢献・地域交流へと繋げていく。
- ②利用者中心の事業所作りを目指し、利用者が行う「天花会議」を実施し、利用者から「やりたい」と出された意見を活動に取り入れていく。
- ③「働く」活動を午前中の活動として実施し、午後は活動プログラムに合わせて実施していく。

2, 利用実績

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	20名	20名
利用者延べ人数	3,844名	3,818名
営業日数	242日	242日
1日平均利用者数	15.9名／日	15.8名／日
定員稼働率	79.4%	78.9%
平均障がい支援区分	4.7	4.7

- ・新たに2名の利用者と契約したが、精神障がいを持つ方々であり、職員が個別に対応したが、継続には至らなかった。

- ・平成30年4月から新たに2名の利用者が加わることになった。「A郡色素乾皮症」という環境面での配慮が必要な利用者であるため、利用開始に向け測定器を使用し、活動部屋の窓、蛍光灯、公用車等に100%紫外線カットのフィルム等の整備を行った。

- ・次年度は、利用登録者が19名となる。平成31年度に利用予定の方もいるが、特別支援学校高等部の現場実習の受け入れを積極的に行い、利用拡大をすすめていきたい。

②運営状況

- ・地域貢献として、活動の中で近隣の歩道や路肩などのゴミ拾いを月2回(冬期間は中止)行った。

- ・天童市内のスーパーおーばんの店頭に立ち、共同募金活動を行った。今年度は、実施が遅くなり、冬期間に入ったため、実施回数が2回となった。

- ・利用者が主体的に参加する「天花会議」を行い、皆で取り組みたい活動等の意見交換を行なった。また、行事については、利用者から実行委員、担当等を決め、利用者が主体的に参加し、スタッフがサポーターとして行事を支えるようにした。外出先や行事の内容等の意見があり、活動プログラムに入れた。

- ・天花会議で利用者から「仕事がしたい」との要望があったため、検討を行った。コミュニティー新聞「サン

「データイムズ」のチラシ入れ、近隣住宅へのポスティングの作業を行った。また、リサイクル作業を行い、地域のスーパー等に資源出しを行った。

・地域の方や近隣の学童クラブ、市内放課後等デイサービスの子どもたち等を招待し、「縁日」を実施し、交流を行った。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	1	1
利用者間のトラブルによる怪我	0	0
転倒等による怪我	1	1
車の事故、破損	1	1
誤投薬・未投薬	0	1
施設・事業所からの離脱	0	0
その他	0	1

苦情報告の状況

内容	件数
家族との連絡・対応ミス	1件

3. 評価及び課題

・天花会議で、利用者より「仕事がしたい」との要望が多くあった。2月に、フードセンターたかき天童店から「はっぴいえコプラザ」の話があったため、天花会議で、話し合いを行ったが、利用者から「やりたい」との声が多くあったため、3月末に寒河江店に伺い、他事業所で行っている様子を見学させていただき、次年度から実施することとした。

・「働く」活動については、コミュニティー新聞のチラシ入れ、ポスティング、はっぴいえコプラザの作業を中心に今後も取り組んでいきたい。資源回収については、各関係機関等にお願ひし、地域交流という視点も持ちながら、実施方法等を検討していきたい。

・地域住民、近隣の学童クラブ、天童市内の放課後等デイサービスの子どもたちなどを招待し、「縁日」を行った。参加者から「楽しかった」との声をたくさんいただいた。

・強度行動障がい、精神障がい、重度の知的障がいなど、多様な障がいを持つ利用者が通所する事業所となっている。利用者同士のトラブルにわる小さな怪我が多い。職員体制を整え、安心して利用していただける事業所を作っていくたい。また、在宅から通所する利用者が多くなってきている。家族との定期的な情報交換の場が必要である。

・東根市、村山市在住の方からの利用希望が多いため、北村山方面もエリアとして視野にいれて運営する必要性が出てきている。楯岡特別支援学校(村山市)、があるため、相談支援事業所と連携しながらニーズを

把握していきたい。

《Ⅱ-19 グループホーム支援センター天花》

所長 渡邊 則幸

1, 当初目標

- ①利用者主体の生活づくりを行う為、利用者との会議を行い、イベントの希望調査・企画や献立の希望、共有スペースの装飾についてなど、意見を聴き、生活に取り入れていく
- ②利用者一人ひとりの障害特性を理解し、統一した支援を行うとともに、利用者の方の行動の背景にある心情を考え、寄り添った支援を行う
- ③ホーム内での季節を感じることができるイベントの実施や希望する職員と個別外出をする機会を作り、楽しみのある生活を提供する。

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	10名	10名
利用者延べ人数	3,410名	2,219名
営業日数	365日	335日
1日平均利用者数	9.3名/日	6.6名/日
定員稼働率	93.4%	81.9%
平均障がい支援区分	5	5

・利用者の変動はない。

②運営状況

i, 体験・経験を増やすための活動(イベント・外出等)

・希望者を募り、地域の夜桜見学、夏祭りに参加した。また、定期的に、地域の美容室、コンビニ等に出かけるとともに、月1回程度の食事外出を行なった。

ii, 利用者主体の生活づくり(生活環境・生活様式・生活リズム)

・定期開催は難しかったが、利用者会議を行い、昼食メニューや行事の内容を決める機会をつくった。

・日課等を固定するのではなく、食事の場所や入浴時間など、利用者のその時々希望に合わせてられるように支援を行なった。

・食事面については、年度途中から配食サービスに切り替え提供した。メニューが決まっており、利用者から要望があっても対応することが難しかった。

iii, 意思決定支援のための取り組み(個別支援計画作成等)

・利用者にできるだけ選択してもらえよう、1人ひとりに合わせ、写真等を用意し、提示した。

・モニタリングや個別支援計画の作成時は、利用者に関き取りを行い、できるだけ本人の意見が反映される

に取り組んだが、聞き取りをする資料等の準備が不十分であったように思われる。

iv, 地域貢献・交流活動

- ・買い物や散歩、地域のお祭りなど、地域に出かける機会を多く持つように心がけた。地域の中で、声をかけていただくことも多くなってきている。
- ・冬期間、隣接するお店の方から、ホームの除雪をしていただいた、
- ・緊急時のネットワークは、まだできていない。

v, その他

- ・ご家族との茶話会は実施できず、帰省や面会の時などに担当を中心に話し合いを行なった。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	0
利用者間のトラブルによる怪我	2	1
転倒等による怪我	1	0
車の事故、破損	0	0
誤投薬・未投薬	1	6
施設・事業所からの離脱	0	0
その他	0	1

苦情報告の状況

内容	件数
家族・事業所との連絡・対応ミス	1件

3, 評価及び課題

- ・職員間で、障がい特性の理解について温度差が生じ、支援の統一が図れず、利用者に混乱させてしまうケースがあった。日課提示など一からやり直し、職員との関係を再構築しながら、支援を行なった。研修や会議等を通して、「支援の3本柱」を徹底、職員1人ひとりが理解を深められるようにしていきたい。
- ・食事においては、配食サービスを利用しているが、食費が高くなってしまった。今後、向陽園管理栄養士、世話人、生活支援員で協議し、グループホームの食事サービスの見直しを考えていきたい。
- ・外出の機会が増えている。利用者のニーズに応え、さらに地域行事等に参加できる機会を増やしていきたい。
- ・10月から夜間の支援体制を夜勤から宿直に変更した。不規則勤務が可能なスタッフの確保が必要である。
- ・民生児童委員をはじめ様々な方が天花の運営に関心を持ち関わってくれている。そうした方々を巻き込みながら、災害等の際に協力していただける会を立ち上げていきたい。

《Ⅱ-20 ぶどうの木ショートステイサービス》

所長 渡邊 則幸

1, 当初目標

- ①地域で生活する、障害児・者の家族及びご本人のニーズに添ったサービスを提供し、出来る限り 自宅と近い生活が出来るように要望の聞き取り、ニーズの把握を行う。
- ②要望、ニーズに合わせたショートステイサービスを実施するとともに、ご家族から信頼されるサービスを提供する。
- ③一人ひとりの障害特性を理解し、統一した支援を行うとともに、利用者の方の心情を考え、寄り添った支援を行う。

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
定員	2名	2名
利用者延べ人数	389名	14名
営業日数	365日	335日
1日平均利用者数	1.06名/日	0.04名/日
定員稼働率	58.1%	2.1%
平均障がい支援区分	3.7	5

・ホームとの兼ね合いで、支援度の低い利用者が中心の利用となってしまった。

②運営状況

- ・契約時に本人・家族に聞き取り調査を行い、職員間で情報を共有してから、受け入れを行なった。
- ・利用申込書を作成し、利用予定表を作成し受け入れを行なった。スムーズに受け入れることができた。
- ・日課を提示し、個々人に合わせた部屋の環境設定を行い、安全面に配慮しながら、支援を行なった。
- ・ホームとの兼務での支援だったため、常に見守りを行なう体制を取ることは難しく、支援が必要な利用者に関しては、相談、デイの職員から時間外で残ってもらい対応した。

事故の状況

内容	平成29年度	平成28年度
器物破損	0	0
利用者間のトラブルによる怪我	1	0
転倒等による怪我	0	0

車の事故、破損	0	0
誤投薬・未投薬	0	0
施設・事業所からの離接	0	0
その他	0	0

3, 評価及び課題

- ・長期利用者、定期的に利用する利用者も増え、前年度より大幅に利用者増となった。今後、益々利用者が増えることが予想される。受け入れ体制を検討していきたい。
- ・新規利用者については、ショートステイの環境に慣れることができるように、家族と相談しながら対応をしていきたい。
- ・天童市の障がい児・者専用の短期入所事業所として、重度の知的障がい、発達障がい等、支援が困難な利用者も利用できる短期入所にしていかなければならない。単独型ショートステイの強みを活かし、緊急的な利用や用事がある方の利用だけではなく、社会経験(家以外に泊まる機会)のための受入も行っていきたい。

《Ⅱ－21 地域生活支援センター天花》

所長 渡邊 則幸

1, 当初目標

- ①天童市自立支援協議会へ働きかけをし、活性化させ、地域資源の開拓につなげる。
- ②アセスメントに重点的に取り組み、利用者の意思決定支援を支える。
- ③地域の方が気軽に集う、地域に必要とされる事業所づくり。
- ④天花虹の会(本人活動)、天花ママ会の定期的開催と内容の充実。

2, 実施状況

①利用実績

	平成29年度	平成28年度
計画相談(更新)	148件	109件
計画相談(モニタ)	395件	363件
計画相談	202件	129件
地域移行支援	1件	1件
地域定着支援	1件	0件

- ・精神障がい者の相談が、年間通して多かった。関わることで、独居の精神障がい者が地域の中で孤立して生活が荒れている状況であることが把握できた。アウトリーチの必要性を感じている。
- ・家族問題、養育問題がある児童の相談もあった。様々な機関とつながり、連携して相談支援を行った。
- ・救護施設、病院から、地域移行支援の相談があった。長期入所、長期入院から地域に移行することの難しさ、人生を生き直すことのお手伝いの素晴らしさ等を、利用者と一緒に体験できた。

②運営状況

- ・天童市の少ない地域資源を最大限に活用するために、福祉サービスに限らず人と繋がることを大切にした。
- ・天童市自立支援協議会の相談支援部会として位置づけるために、相談支援事業所連絡会として毎月第1火曜日に、市内の相談支援事業所で集まり、地域の課題等を話し合ってきた。働きかけを行ってきたことで、天童市の担当職員も毎回参加してくれるようになった。自立支援協議会の活性化のために、自立支援協議会の事務局に相談支援事業所を参加させて欲しいことを伝えてきた。
- ・相談員のスキルアップを目的に、外部研修にも積極的に参加した。また、相談員が講師として地域の研修会に参加した。
- ・天花虹の会(本人の会)、ママ会を月に1回定期的に開催した。楽しみにして来てくれる地域の障がい児・者やご家族、ボランティアの方も増え、毎回大盛況であった。天花ママ会には、母が1人で悩み、虐待に発展しそうな方も参加してくれた。ピアカウンセリングとしての効果も上がってきた。

3, 評価及び課題

- ・天童市自立支援協議会の活性化に向け働きかけを行ってきた。今年度、専門部会の立ち上げは、叶わなかったが、引き続き働きかけを行っていききたい。
- ・地域の中で孤立している障がい者へのアウトリーチとアセスメントに力を入れてきた。その方の置かれている状況や気持ちを理解し、行動することを意識し、チームとして相談員が統一した働き掛けをしていくことを心掛けてきた。そうした取り組みの成果か、関係機関から声をかけていただくことが多くなってきている。
- ・気楽に立ち寄っていただける雰囲気づくりを大切にしてきたが、地域資源が少ない中で福祉サービスに限らず、様々な地域の方々とのつながりが深くなってきている。そのことが、障がいのある方々の生活を支えることにつながってきている。孤立して生活していれば荒れてしまう生活も、地域の人と繋がることで生きる活力になったという事例も数件みられる。
- ・天花虹の会、ママ会も定期開催が叶い、年間通して開催しない月はなかった。ママ会は、〈ママだけ会〉と称して、母のみが集まり話をする会も開催し、内容も充実してきている。会場の確保が課題であるが、天童市内の公民館等の借用等を検討したい。

《Ⅱ－22 多機能型事業所なかやま虹の丘》

所長 寒河江宗雄

1, 当初目標

- ①利用者1人ひとりの個性を活かし働くや活動を取り入れ自分らしさを表現できるよう支援する。
- ②1人ひとりの可能性を伸ばしていくため、経験や体験の機会を提供する。
- ③満足感や達成感が得られるように受託作業の維持、自主製品の開発、充実に向け取り組む。
- ④本人の意思が反映された選択を行うため、情報を発信し地域での様々な体験や交流を通し機会が広がるよう支援すると共に交流の架け橋となる。

2, 実施状況

①利用実績

生活介護

平成29年度	10
平成28年度	10
定員	
利用者延べ人数	2, 293
	710
営業日数	243日
	120日
1日平均利用者数	9. 4名／日
	5. 9名／日
定員稼働率	94. 0%
	59. 0%
平均障がい支援区分	4. 2
	4. 3

就労継続支援B型

平成29年度
平成28年度
定員

10

10

利用者延べ人数

1, 731

1, 057

営業日数

243 日

120日

1日平均利用者数

7. 1名／日

8. 8名／日

定員稼働率

76. 0%

88. 0%

平均障がい支援区分

2. 4

3. 0

②運営状況

i , 生活介護

・異なる特性の方々が多く多様なニーズにいかに対応して行くか、支援員一同研修を含め共有を図りながら、支援を行なってきたが、個別での支援という点では応えきれていない状況にある。

また、長期入院の方もおられたり、就Bより生活への移行の方もおり、変動が見られたが後半は落ち着き安定した状況が見られた。10月より働く活動等も取り入れ達成感、意欲を持っていただくよう支援に取り組んだ。

ii , 就労継続支援B型

・受託作業と共に自主製品として祭り花作りを中心に取り組んできたが、季節の製品ということもあり繁忙期は忙しい日々が続いた。収入面では安定し利用者も意欲を持ち、良い製品づくりに取り組んでいた。今後も工賃向上と共に喜ばれる製品を目指して取り組んでいきたい。

事故の状況

内容

平成29年度

平成28年度

器物破損	0	0
利用者間のトラブルによる怪我	0	0
転倒等による怪我	0	0
車の事故、破損	0	1
誤投薬・未投薬	1	0
施設・事業所からの離脱	0	0
その他	1	0

3, 評価及び課題

- ・多様なニーズに応えられるよう、研修等を含め取り組んでいるが、職員のスキルアップにはなかなか繋がっていない。引き続き、研修等を行いながら、職員の意識の向上、スキルアップを図っていきたい。
- ・地域展開については、弱い部分もあり、情報発信と共にネットワークづくりを行っていきたい。
- ・苦情、事故、疾病等もなく一丸となって支援に努められたと思う。今後も関係機関、GH等と連携し支援に取り組んでいきたい。